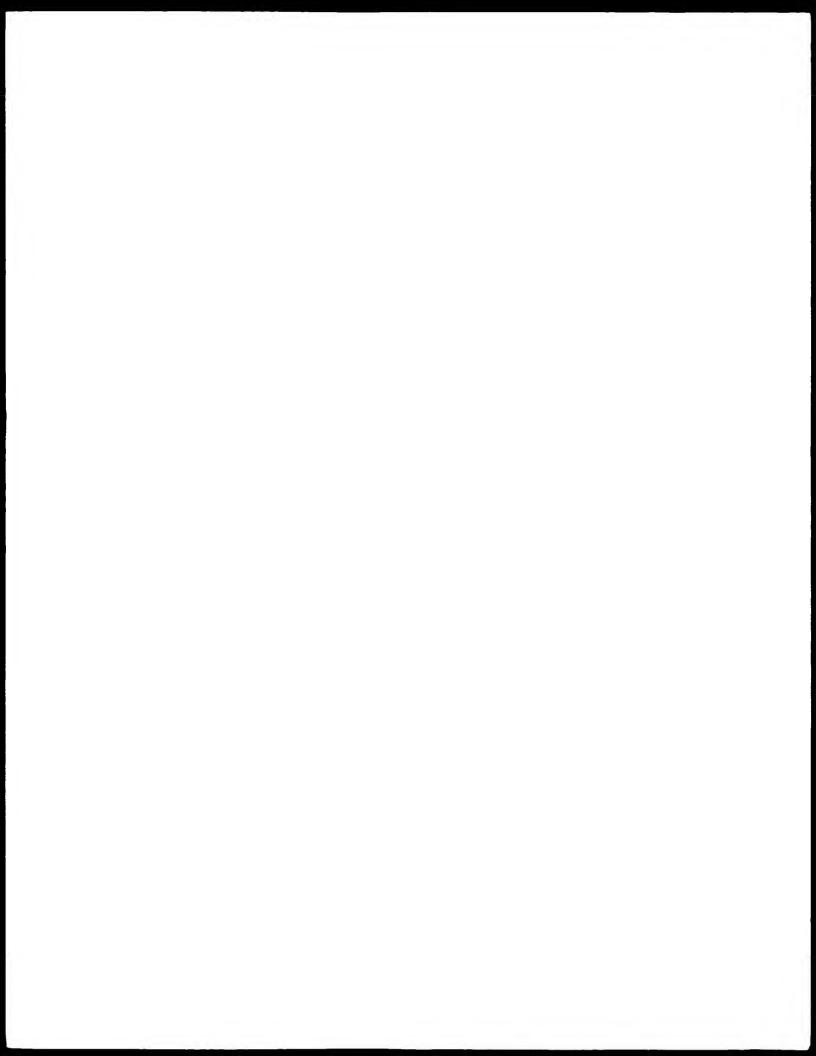
TATENT COOPERATION TREATY

	From the INTERNATIONAL BUREAU
PCT	To:
NOTIFICATION OF ELECTION (PCT Rule 61.2)	Assistant Commissioner for Patents United States Patent and Trademark Office Box PCT Washington, D.C.20231 ETATS-UNIS D'AMERIQUE
Date of mailing: 28 September 2000 (28.09.00)	in its capacity as elected Office
International application No.: PCT/JP00/01778	Applicant's or agent's file reference: C2-101PCT
International filing date: 23 March 2000 (23.03.00)	Priority date: 23 March 1999 (23.03.99)
Applicant: SOWA, Yoshihiro et al	
The designated Office is hereby notified of its election maximum. X in the demand filed with the International preliminal 23 March 200	ary Examining Authority on: 90 (23.03.00) ernational Bureau on: date or, where Rule 32 applies, within the time limit under
The International Bureau of WIPO 34, chemin des Colombettes 1211 Geneva 20, Switzerland	Authorized officer: J. Zahra
Facsimile No.: (41-22) 740.14.35	Telephone No.: (41-22) 338.83.38



許協力条約

PCT

国際予備審查報告

REC'D 12 SEP 2000 PCT WIPO

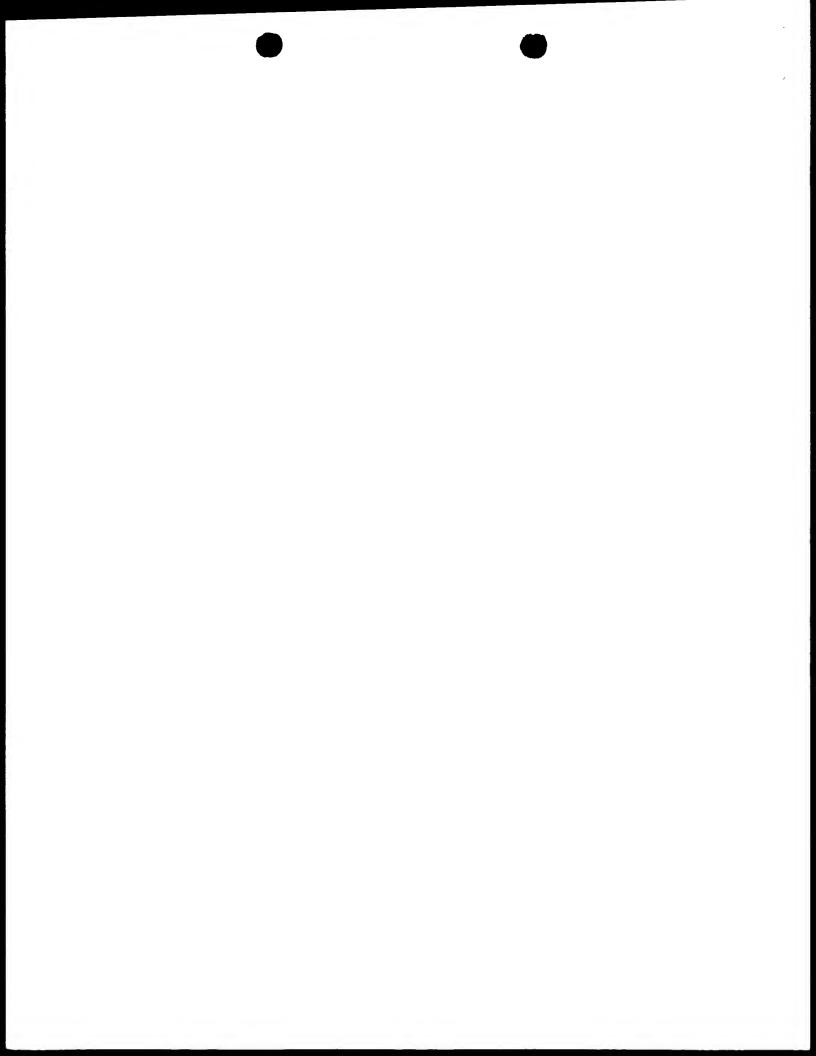
(法第12条、法施行規則第56条) [PCT36条及びPCT規則70]

願人又は代理人 書類記号 C2-101PCT				こと。
際出願番号 CT/JP00/01778	国際出願日(日.月.年)	23.03.00	優先日(日.月.年)	23.03.99
国際特許分類 (IPC) Int.Cl' C120	1/02, C12N 15/09	, A61K 31/165, A61P 35/0	0, A61K 45/00 // C1	2N 5/10
出願人(氏名又は名称) 株式会社 中	外分子医学研究所			
1. 国際予備審査機関が作成したこ	の国際予備審査報		(PCT36条) の ^規	見定に従い送付する。
- ** 京阪系農薬本報告け この	表紙を含めて全部	Bで <u>3</u> ^	ページからなる。	
2. この国際了備審査報告には	ではめれる、B84 CT実施細則第6	07号参照)	ら添付されている。 	
I 区 国際予備審査報告の				
Ⅱ [] 優先権				
Ⅲ ■ 新規性、進歩性又に	は産業上の利用可能	 性についての国際予備署	審査報告の不作成	
IV	ם	_	Marki) > > - T O E	3g それを重付けるため
V × PCT35条(2)に の文献及び説明 VI ある種の引用文献	規定する新規性、	進歩性又は産業上の利用	可能性についてのえ	見解、それを裏付けるため
VII 国際出願の不備				
VII 国際出願に対する	意見			
国際予備審査の請求書を受理した 23.03.	日 0 0	国際予備審査	報告を作成した日 24.0 	8.00
名称及びあて先		特許庁審査官	(権限のある職員)	4 B 9 2 8

電話番号 03-3581-1101 内線

3 4 4 8

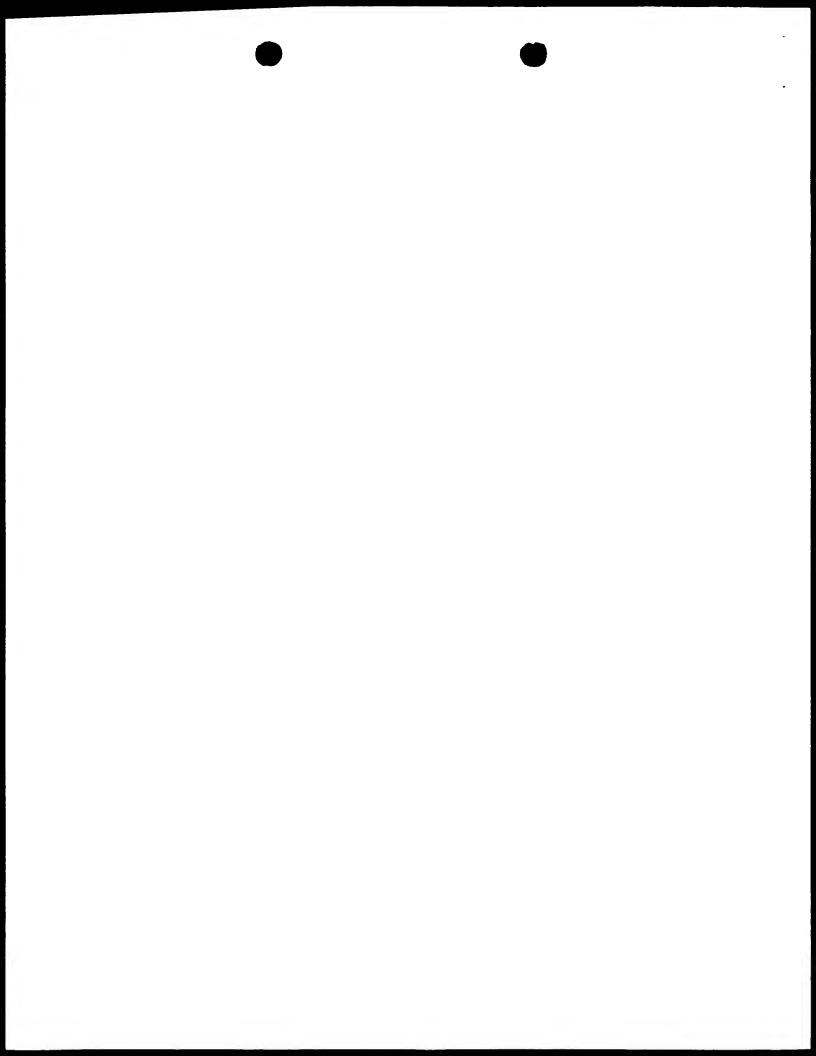
郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号





国際出願番号 PCT/JP00/01778

国際予備審査報告の基礎 この国際予備審査報告は下記の出願書類に		b Ott等6各 (PCT	14条)の規定に基づく命令に
この国際予備審査報告は下記の出願書類に応答するために提出された差し替え用紙は	基づいて作成され	た。 (仏知り本 ()	報告書には添付しない。
cox するために提出された差し替え用紙は	、この報告者にお	24 - C - Himm - 13	
PCT規則70. 16, 70. 17)			
P C 1 MAN 101 - 17			
× 出願時の国際出願書類			
	ベーシ、	出願時に提出されたも σ	I was a second of the second o
明細書 第 明細書 第	<u>[</u> [{i}]		一世に 1号 内 さんしに ひゃく
明細書 第	2-3		付の書簡と共に提出されたもの
	項	出願時に提出されたもの) + よも妹エされたもの
請求の範囲 第		PCT19条の規定に表	まつき相正された。 - エに根田されたもの
請求の範囲 第	——項、	PCT19条の規定に 国際予備審査の請求書	と共に促出されたもの 付の書簡と共に提出されたもの
清水00吨四 %	——·項、		797年間に入る。
請求の範囲 第			T 1
	ページ ′ 図、	出願時に提出されたもの	// レ共に提出されたもの
図面 第	ページ・図	、国際予備審査の請求者	と共に促出されたもの - 付の書簡と共に提出されたもの -
図面 第	ページ /図	、 出願時に促出された 0、 、 国際予備審査の請求書	11.00
図面 第			σ
明細書の配列表の部分 第	ページ、	出願時に提出されたも国際予備審査の請求書	しました。それには、カメン
明柳書の配列表の部分 第	ページ、	国际 17mm 由 47m 水 自	で共に提出されたもの 付の書簡と共に提出されたもの
明細書の配列表の部分 第	ページ、		
明和看少此为数少662		- の国際出願の言語である	l o
. 上記の出願書類の言語は、下記に示す	場合を除くほか、		
. 上記の田殿者類の日間に	?T →S	± 7.	
上記の書類は、下記の言語である		<i>8)</i> 'S o	
国際調査のために提出されたP(1 ALAGERIA		
□ PCT規則48.3(b)にいう国際公	開の言語 * D C T 規則155 21	または55.3にいう翻訳文の	言語
□ PCT規則48.3(b)にいう国際公	開の言語 ~PCT規則55.2%	または55.3にいう翻訳文の	言語
□ PCT規則48.3(b)にいう国際公	開の言語 ~PCT規則55.2%	または55.3にいう翻訳文の	言語 づき国際予備審査報告を行った。
□ PCT規則48.3(b)にいう国際公□ 国際予備審査のために提出された。 □ 国際・事備審査のために提出された。 3. この国際出願は、ヌクレオチド又はア	開の言語 ~PCT規則55.2%	または55.3にいう翻訳文の	言語 づき国際予備審査報告を行った。
PCT規則48.3(b)にいう国際公 国際予備審査のために提出された。 3. この国際出願は、ヌクレオチド又はア	開の言語 EPCT規則55.27 ミノ酸配列を含ん	または55.3にいう翻訳文の いでおり、次の配列表に基	言語 づき国際予備審査報告を行った。
PCT規則48.3(b)にいう国際公 国際予備審査のために提出された。 この国際出願は、ヌクレオチド又はア この国際出願に含まれる書面に	開の言語 EPCT規則55.27 ミノ酸配列を含ん よる配列表	または55.3にいう翻訳文の いでおり、次の配列表に基 スクによる配列表	うら 国际 I Man Tune
PCT規則48.3(b)にいう国際公 国際予備審査のために提出された 3. この国際出願は、ヌクレオチド又はア この国際出願に含まれる書面に この国際出願と共に提出された	開の言語 EPCT規則55.27 ミノ酸配列を含ん よる配列表 フレキシブルディ	または55.3にいう翻訳文の いでおり、次の配列表に基 スクによる配列表	記列表
PCT規則48.3(b)にいう国際公 国際予備審査のために提出された この国際出願は、ヌクレオチド又はア この国際出願に含まれる書面に この国際出願と共に提出された	開の言語 とPCT規則55.27 ミノ酸配列を含ん よる配列表 フレキシブルディ または調査)機関	または55.3にいう翻訳文の いでおり、次の配列表に基 スクによる配列表 Jに提出された書面による	記列表
PCT規則48.3(b)にいう国際公 国際予備審査のために提出された この国際出願は、ヌクレオチド又はア この国際出願に含まれる書面に この国際出願と共に提出された	開の言語 とPCT規則55.27 ミノ酸配列を含ん よる配列表 フレキシブルディ または調査)機関	または55.3にいう翻訳文の いでおり、次の配列表に基 スクによる配列表 Jに提出された書面による	記列表
PCT規則48.3(b)にいう国際公 国際予備審査のために提出された この国際出願は、ヌクレオチド又はア この国際出願に含まれる書面に この国際出願と共に提出された 出願後に、この国際予備審査(出願後に、この国際予備審査(開の言語 とPCT規則55.21 ミノ酸配列を含ん よる配列表 フレキシブルディ または調査)機関 または調査)機関	または55.3にいう翻訳文の でおり、次の配列表に基 スクによる配列表 は提出された書面による配 に提出されたフレキシブ。 はな国際出願の開示の範	記列表 ルディスクによる配列表 用を超える事項を含まない旨の陳
PCT規則48.3(b)にいう国際公 国際予備審査のために提出された この国際出願は、ヌクレオチド又はア この国際出願に含まれる書面に この国際出願と共に提出された 出願後に、この国際予備審査(出願後に、この国際予備審査(開の言語 とPCT規則55.21 ミノ酸配列を含ん よる配列表 フレキシブルディ または調査)機関 または調査)機関	または55.3にいう翻訳文の でおり、次の配列表に基 スクによる配列表 は提出された書面による配 に提出されたフレキシブ。 はな国際出願の開示の範	記列表 ルディスクによる配列表 用を超える事項を含まない旨の陳
PCT規則48.3(b)にいう国際公 国際予備審査のために提出された 国際予備審査のために提出された この国際出願に含まれる書面に この国際出願と共に提出された 出願後に、この国際予備審査(出願後に、この国際予備審査(出願後に提出した書面による配 書の提出があった 書面による配列表に記載した種	開の言語 とPCT規則55.21 ミノ酸配列を含ん よる配列表 フレキシブルディ または調査)機関 または調査)機関	または55.3にいう翻訳文の でおり、次の配列表に基 スクによる配列表 は提出された書面による配 に提出されたフレキシブ。 はな国際出願の開示の範	記列表 ルディスクによる配列表 用を超える事項を含まない旨の陳
PCT規則48.3(b)にいう国際公 国際予備審査のために提出された この国際出願は、ヌクレオチド又はア この国際出願に含まれる書面に この国際出願と共に提出された 出願後に、この国際予備審査(出願後に、この国際予備審査(開の言語 とPCT規則55.21 ミノ酸配列を含ん よる配列表 フレキシブルディ または調査)機関 または調査)機関	または55.3にいう翻訳文の でおり、次の配列表に基 スクによる配列表 は提出された書面による配 に提出されたフレキシブ。 はな国際出願の開示の範	記列表
□ PCT規則48.3(b)にいう国際公□ 国際予備審査のために提出された 3. この国際出願は、ヌクレオチド又はア□ この国際出願に含まれる書面に□ この国際出願と共に提出された□ 出願後に、この国際予備審査(□ 出願後に、この国際予備審査(□ 出願後に提出した書面による配書の提出があった 書の提出があった。書の提出があった。	開の言語 とPCT規則55.21 ミノ酸配列を含ん よる配列表 フレキシ調査)機関 または調査的 機関 現表が出願時によ	または55.3にいう翻訳文の でおり、次の配列表に基 スクによる配列表 は提出された書面による配 に提出されたフレキシブ。 はな国際出願の開示の範	記列表 ルディスクによる配列表 用を超える事項を含まない旨の陳
PCT規則48.3(b)にいう国際公 国際予備審査のために提出された 国際予備審査のために提出された この国際出願に含まれる書面に この国際出願と共に提出された 出願後に、この国際予備審査(出願後に、この国際予備審査(出願後に提出した書面による配 書面による配列表に記載した配 書の提出があった。	開の言語 とPCT規則55.21 ミノ酸配列を含ん よる配列表 フレキシブが 機関 または調査 機関 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	または55.3にいう翻訳文のでおり、次の配列表に基づえり、次の配列表に基づえりによる配列表別に提出された書面による配式を提出されたフレキシブのはよる国際出願の開示の範に	記列表 ルディスクによる配列表 用を超える事項を含まない旨の陳
PCT規則48.3(b)にいう国際公 国際予備審査のために提出された 国際予備審査のために提出された この国際出願に含まれる書面に この国際出願と共に提出された 出願後に、この国際予備審査(出願後に、この国際予備審査(出願後に提出した書面による配 書面による配列表に記載した配 書の提出があった。	開の言語 とPCT規則55.21 ミノ酸配列を含ん よる配列表 フレキシブが 機関 または調査 機関 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	または55.3にいう翻訳文のでおり、次の配列表に基づえり、次の配列表に基づえりによる配列表別に提出された書面による配式を提出されたフレキシブのはよる国際出願の開示の範に	記列表 ルディスクによる配列表 用を超える事項を含まない旨の陳
PCT規則48.3(b)にいう国際公 国際予備審査のために提出された 国際予備審査のために提出された この国際出願に含まれる書面に この国際出願と共に提出された 出願後に、この国際予備審査(出願後に、この国際予備審査(出願後に提出した書面による配 書面による配列表に記載した配 書の提出があった。	開の言語 とPCT規則55.21 ミノ酸配列を含ん よる配列表 フレキシブが または調査)機関 現列表が出願時にお 記列とフレキシブが た。	または55.3にいう翻訳文のでおり、次の配列表に基づえり、次の配列表に基づえりによる配列表別に提出された書面による配式を提出されたフレキシブのはよる国際出願の開示の範に	記列表 ルディスクによる配列表 用を超える事項を含まない旨の陳
□ PCT規則48.3(b)にいう国際公 □ 国際予備審査のために提出された 3. この国際出願は、ヌクレオチド又はア □ この国際出願に含まれる書面に □ この国際出願と共に提出された □ 出願後に、この国際予備審査 (□ 出願後に、この国際予備審査 (□ 出願後に提出した書面による配書の提出があった。 書の提出があった。 4. 補正により、下記の書類が削除され □ 明細書 第 □ 請求の範囲 第 □	開の言語 とPCT規則55.25 ミノ酸配列を含め よる配列表 フレキシブルディ または調査を)機関 は別表が出願時にお は列とフレキシブル た。	または55.3にいう翻訳文のでおり、次の配列表に基づスクによる配列表別に提出された書面による配別に提出されたフレキシブのは1る国際出願の開示の範囲でイスクによる配列表に	記列表 ルディスクによる配列表 用を超える事項を含まない旨の陳 記録した配列が同一である旨の陳
□ PCT規則48.3(b)にいう国際公 □ 国際予備審査のために提出された 3. この国際出願は、ヌクレオチド又はア □ この国際出願に含まれる書面に □ この国際出願と共に提出された □ 出願後に、この国際予備審査 (□ 出願後に、この国際予備審査 (□ 出願後に提出した書面による配書の提出があった。 書の提出があった。 4. 補正により、下記の書類が削除され □ 明細書 第 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	開の言語 とPCT規則55.25 ミノ酸配列を含ん よる配列表 フレキシブルディ または調調査)機関 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	または55.3にいう翻訳文のでおり、次の配列表に基づスクによる配列表別に提出された書面による配別に提出されたフレキシブのは1る国際出願の開示の範囲ディスクによる配列表にページ/図	記列表 ルディスクによる配列表 用を超える事項を含まない旨の陳 記録した配列が同一である旨の陳
□ PCT規則48.3(b)にいう国際公 □ 国際予備審査のために提出された コの国際出願は、ヌクレオチド又はア この国際出願に含まれる書面に この国際出願と共に提出出き畜査(出願後に、この国際予備審査(出願後に提出した書面による配書の提出があった。 書の提出があった。 4. 補正により、下記の書類が削除され □ 明細書 第 □ 図面 図面 図面の第 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	開の言語 とPCT規則55.25 ミノ酸配列を含め よる配列表プレキシブ査 または調調査を はまたは調調査を は現まが出願時による列とフレキシブグ た。	または55.3にいう翻訳文の いでおり、次の配列表に基 スクによる配列表 別に提出された書面による配 別に提出されたフレキシブ のはる国際出願の開示の範 レディスクによる配列表に ページ/図 補正が出願時における開 また。(PCT規則70.20	記列表 ルディスクによる配列表 用を超える事項を含まない旨の陳 記録した配列が同一である旨の陳
□ PCT規則48.3(b)にいう国際公 □ 国際予備審査のために提出された コの国際出願は、ヌクレオチド又はア この国際出願に含まれる書面に この国際出願と共に提出出き畜査(出願後に、この国際予備審査(出願後に提出した書面による配書の提出があった。 書の提出があった。 4. 補正により、下記の書類が削除され □ 明細書 第 □ 図面 図面 図面の第 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	開の言語 とPCT規則55.25 ミノ酸配列を含め よる配列表プレキシブ査 または調調査を はまたは調調査を は現まが出願時による列とフレキシブグ た。	または55.3にいう翻訳文の いでおり、次の配列表に基 スクによる配列表 別に提出された書面による配 別に提出されたフレキシブ のはる国際出願の開示の範 レディスクによる配列表に ページ/図 補正が出願時における開 また。(PCT規則70.20	記列表 ルディスクによる配列表 用を超える事項を含まない旨の陳 記録した配列が同一である旨の陳
□ PCT規則48.3(b)にいう国際公 □ 国際予備審査のために提出された 3. この国際出願は、ヌクレオチド又はア □ この国際出願に含まれる書面に □ この国際出願と共に提出された □ 出願後に、この国際予備審査 (□ 出願後に、この国際予備審査 (□ 出願後に提出した書面による配書の提出があった。 書の提出があった。 4. 補正により、下記の書類が削除され □ 明細書 第 □ 請求の範囲 第 □	開の言語 とPCT規則55.25 ミノ酸配列を含め よる配列表プレキシブ査 または調調査を はまたは調調査を は現まが出願時による列とフレキシブグ た。	または55.3にいう翻訳文の いでおり、次の配列表に基 スクによる配列表 別に提出された書面による配 別に提出されたフレキシブ のはる国際出願の開示の範 レディスクによる配列表に ページ/図 補正が出願時における開 また。(PCT規則70.20	記列表 ルディスクによる配列表 用を超える事項を含まない旨の陳 記録した配列が同一である旨の陳
□ PCT規則48.3(b)にいう国際公 □ 国際予備審査のために提出された コの国際出願は、ヌクレオチド又はア この国際出願に含まれる書面に この国際出願と共に提出出き畜査(出願後に、この国際予備審査(出願後に提出した書面による配書の提出があった。 書の提出があった。 4. 補正により、下記の書類が削除され □ 明細書 第 □ 図面 図面 図面の第 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	開の言語 とPCT規則55.25 ミノ酸配列を含め よる配列表プレキシブ査 または調調査を はまたは調調査を は現まが出願時による列とフレキシブグ た。	または55.3にいう翻訳文の いでおり、次の配列表に基 スクによる配列表 別に提出された書面による配 別に提出されたフレキシブ のはる国際出願の開示の範 レディスクによる配列表に ページ/図 補正が出願時における開 また。(PCT規則70.20	記列表 ルディスクによる配列表 用を超える事項を含まない旨の陳 記録した配列が同一である旨の陳
□ PCT規則48.3(b)にいう国際公 □ 国際予備審査のために提出された コの国際出願は、ヌクレオチド又はア この国際出願に含まれる書面に この国際出願と共に提出出き畜査(出願後に、この国際予備審査(出願後に提出した書面による配書の提出があった。 書の提出があった。 4. 補正により、下記の書類が削除され □ 明細書 第 □ 図面 図面 図面の第 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	開の言語 とPCT規則55.25 ミノ酸配列を含め よる配列表プレキシブ査 または調調査を はまたは調調査を は現まが出願時による列とフレキシブグ た。	または55.3にいう翻訳文の いでおり、次の配列表に基 スクによる配列表 別に提出された書面による配 別に提出されたフレキシブ のはる国際出願の開示の範 レディスクによる配列表に ページ/図 補正が出願時における開 また。(PCT規則70.20	記列表 ルディスクによる配列表 用を超える事項を含まない旨の陳 記録した配列が同一である旨の陳
□ PCT規則48.3(b)にいう国際公 □ 国際予備審査のために提出された コの国際出願は、ヌクレオチド又はア この国際出願に含まれる書面に この国際出願と共に提出出された □ 出願後に、この国際予備審査(□ 出願後に提出した書面による配書の提出があった。 書の提出があった。 4. 補正により、下記の書類が削除され □ 明細書 第 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	開の言語 とPCT規則55.25 ミノ酸配列を含め よる配列表プレキシブ査 または調調査を はまたは調調査を は現まが出願時による列とフレキシブグ た。	または55.3にいう翻訳文の いでおり、次の配列表に基 スクによる配列表 別に提出された書面による配 別に提出されたフレキシブ のはる国際出願の開示の範 レディスクによる配列表に ページ/図 補正が出願時における開 また。(PCT規則70.20	記列表 ルディスクによる配列表 用を超える事項を含まない旨の陳 記録した配列が同一である旨の陳



国際予備審査報告

国際出願番号 PCT/JP00/01778

文献及び説明			
見解			
新規性 (N)	請求の範囲 請求の範囲	1 - 3 4 - 5	
進歩性(IS)	請求の範囲 請求の範囲	1 - 5	
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 請求の範囲 	1 - 5	

文献及び説明 (PCT規則70.7)

請求の範囲1-5は、国際調査で引用された文献1 (HASEGAWA, T. et al., Biochem. Biophys. Res. Commun. (1999. Mar. 5) Vol. 256, No. 1, p. 249-254)、文献 2 (SOWA, Y. et a 1., Biochem. Biophys. Res. Commun. (1997) Vol. 241, No. 1, p. 142-150)、文献 3 (NAKAN 0, K. et al., J. Biol. Chem. (1997) Vol. 272, No. 35, p. 22199-22206) 、文献 4 (JP, 60-14 9520, A (味の素株式会社) 7.8月.1985(07.08.85))、文献 5 (NAKAJIMA, H. et al., Ex p. Cell Res (1998) Vol. 241, No. 1, p. 126-133) 及び文献 6 (WARRELL, R. P. et al., J. Na した Cancer Inst. (1998) Vol. 90, No. 21, p. 1621-1625) により進歩性を有しない。文献 1には、ヒストン脱アセチル化酵素の阻害剤であるトリコスタチンAがp21 プロモ ーターを活性化させるのに該プロモーターの特定領域が関与しており、該特定領域は ークーを向ばしている。文献2、3には、ヒストン脱アセチ Sp3により活性化されることが記載されている。文献2、3には、ヒストン脱アセチ ル化酵素の阻害剤であるトリコスタチンA、酪酸ナトリウムがSp1結合配列を介してp ルルトリートル・ファイクラント、開致ノアックスからpt和ロロスタイントでは、MAF1/Cipl遺伝子プロモーターを活性化させることが記載されている。文献4-6 には、ビストン脱アセチル化酵素の阻害剤を抗腫瘍剤として使用することが記載され ている。よって、ヒストン脱アセチル化酵素の阻害剤であり、抗腫瘍活性を示す化合 物は、Sp3を介して転写活性化することが想定されるので、抗腫瘍剤の効率的なスクリーニングを目的として、Sp3を介して転写が活性される領域をアッセイ系に用い Sp3を介する転写活性を促進する化合物をスクリーニングして、該化合物を抗腫 瘍剤の候補とすることは、当業者が容易に想到し得ることである。

プロントの範囲(1000)。 請求の範囲4-5は、文献4、文献5又は文献6に記載されているので新規性を有 しない。文献4には、ヒストン脱アセチル化酵素の阻害剤であるトリコスタチンAを 抗腫瘍剤として使用することが記載されており、トリコスタチンAは「Sp3を介する 転写活性を促進する化合物」であるから、文献4には、「Śp3を介する転写活性を促 進する化合物」を有効成分とする抗腫瘍剤が記載されている。文献5、6には、ヒス トン脱アセチル化酵素の阻害剤を抗腫瘍剤として使用することが記載されており、該阻害剤は「Sp3を介する転写活性を促進する」ものと認められるから、文献5、6に は、「Sp3を介する転写活性を促進する化合物」を有効成分とする抗腫瘍剤が記載さ

れているものと認められる。



Translation

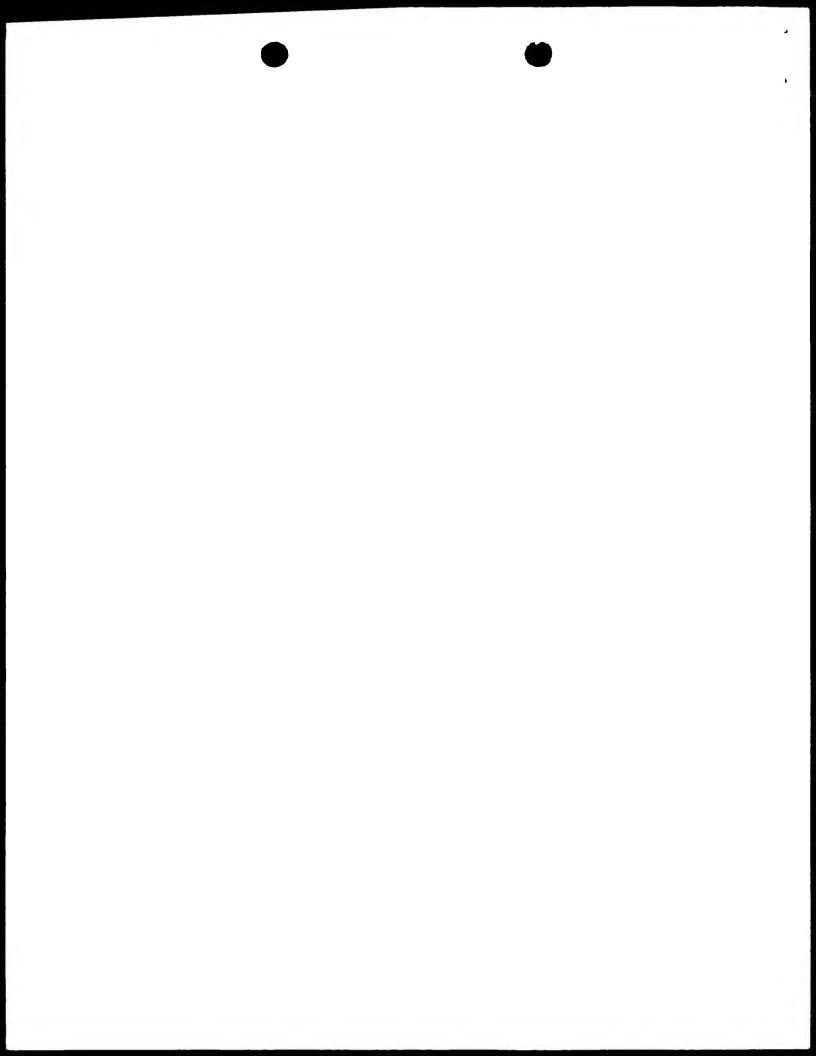


PCT

INTERNATIONAL PRELIMINARY EXAMINATION REPORT

(PCT Article 36 and Rule 70)

applicant's or agent's file reference C2-101PCT	FOR FURTHER ACTION Exam	- the year		
nternational application No. PCT/JP00/01778	International filing date (day month v 23 March 2000 (23.03.00	Priority date (day month year) 23 March 1999 (23.03.99)		
	r national classification and IPC K 31 165, A61P 35 00, A61K 45-00	. C12N 5 10		
	ARCH INSTITUTE FOR MOLE			
and is transmitted to the applica	camination report has been prepared by the transfer of the second of the	his International Preliminary Examining Authority is cover sheet.		
This report is also accor amended and are the ba 70.16 and Section 607 c	npanied by ANNEXFS, i.e., sheets of the as for this report and or sheets containing f the Administrative Instructions under the first true tions and the sheet and the sheet sheet are the sheet and the sheet are the sheet and the sheet are t	rectifications made before this Authority (see Rule		
i	f a total ofsheets.			
3. This report contains indication Basis of the re	s relating to the following items:			
II Priority III Non-establish		nventive step and industrial applicability		
v (2) citations and	tement under Article 35(2) with regard to explanations supporting such statement	o novelty, inventive step or industrial applicability;		
VI Certain docu	ments cited cts in the international application			
	ervations on the international application			
	Date 0	completion of this report		
Date of submission of the demand 23 March 2000 (23.03.00)		24 August 2000 (24.08.2000)		
Name and mailing address of the	PEA JP Autho	rized officer		
	1.1.0	hone No		



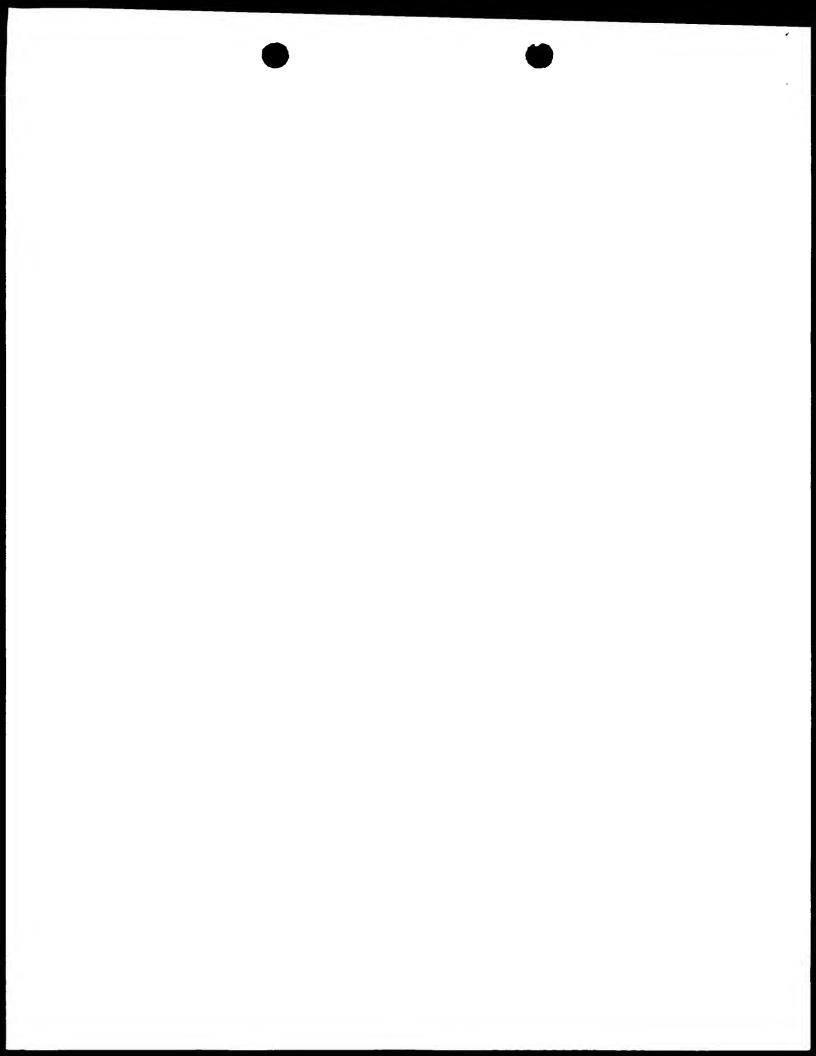


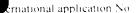
INTERNATIONAL PRELIMINARY EXAMINATION REPORT

ernational application No

PCT/JP00/01778

	sis of the	·
1. W	_	to the elements of the international application:*
\triangleright	the ii	nternational application as originally filed
Ē	the d	escription
_	page	s, as originally filed
	page	. Med with the demand
	page	
Г	The o	laims
<u>_</u>	page	, as originally filed
	base	as amended (together with any statement under Article 17
	page	
	page	
Г	T the s	trawings:
L	page	as originally filed
	page	
	page	
Г	_	quence listing part of the description.
L	_	
	page	s as originally filed seemand, filed with the demand
	page	s
. 1.		d to the language , all the elements marked above were available or furnished to this Authority in the language in which tional application was filed, unless otherwise indicated under this item.
i i	hese elen	nents were available or furnished to this Authority in the following language which is:
	==	language of a translation furnished for the purposes of international search (under Rule 23.1(b)).
		language of publication of the international application (under Rule 48.3(b)).
		language of the translation furnished for the purposes of international preliminary examination (under Rule 55.2 and/ 5.3).
3. V	Vith regareluminar	and to any nucleotide and/or amino acid sequence disclosed in the international application, the international y examination was carried out on the basis of the sequence listing:
	=	tained in the international application in written form.
	file	together with the international application in computer readable form.
	==	ushed subsequently to this Authority in written form
		iished subsequently to this Authority in computer readable form.
	inte	statement that the subsequently furnished written sequence listing does not go beyond the disclosure in the rnational application as filed has been furnished
	_	statement that the information recorded in computer readable form is identical to the written sequence listing has a furnished
1 [I he	amendments have resulted in the cancellation of
Ī -		the description, pages
		the claims. Nos
		the drawings, sheets fig
5	I his	report has been established as if (some of) the amendments had not been made, since they have been considered to go and the disclosure as filed, as indicated in the Supplemental Box (Rule 70.2(c)).**
17	n this rep	ent sheets which have been furnished to the receiving Office in response to an invitation under Article 14 are referred to port as originally filed and are not annexed to this report since they do not contain amendments (Rule 70.16).
	nd 70-17. Inv replac	vement sheet containing such amendments must be reverred to under item I and annexed to this report







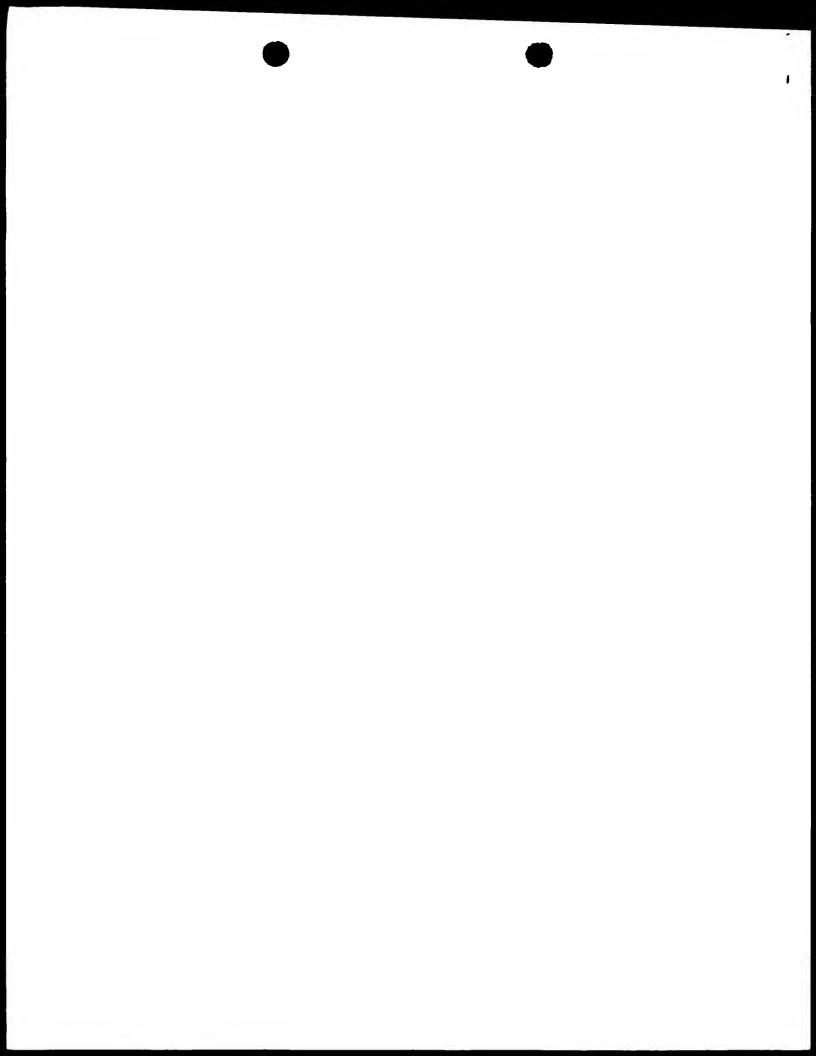
PCT/JP00/01778

Statement			
Novelty (N)	Claims	1-3	Yier
	Claims	4-5	NO NO
Inventive step (IS)	Claims		YE:
	Claims	1-5	NO
Industrial applicability (IA)	Claims		YE
	Claims	1-5	NO

2 Citations and explanations

Based on the descriptions in document 1 [Hasegawa, T. et al., Biochem. Biophys. Res. Commun., Vol. 256, No. 1, March 5, 1999, pp. 249-254], document 2 [Sowa, Y. et al., Biochem. Biophys Res. Commun., Vol. 241, No. 1, 1997, pp. 142-150], document 3 [Nakano, K. et al., J. Biol. Chem., Vol 272, No. 35, 1997, pp. 22199-22206], document 4 [JP, 60-149520, A (Ajinomoto Co., Ltd.) 7 August 1985 (07.08.85)], document 5 [Nakajima, H. et al., Exp. Cell Res., Vol 241, No. 1, 1998, pp. 126-133] and document 6 [Warrell, R. P. et al., J. Natl. Cancer Inst., Vol. 90, No. 21, 1998, pp. 1621-1625] cited in the international search report, the inventions set forth in Claims 1-5 do not appear to involve an inventive step. Document 1 states that for the histone deacetylase inhibitor Trichostatin A to activate the p21WAF1 promoter, a specific region of the promoter is involved, and this specific region is activated by Sp3. Documents 2 and 3 state that the histone deacetylase inhibitors Trichostatin A and sodium butyrate activate the p21/WAF1 Cip1 gene promoter via the Sp1 binding sequence. Documents 4-6 describe the use of histone deacetylase inhibitors as antitumor agents. As a result, because compounds that are histone deacetylase inhibitors and demonstrate antitumor activity are assumed to activate transcription via Sp3, persons skilled in the art can easily conceive of using a region that activates Sp3-mediated transcription in an assay system for the purpose of efficient screening of antitumor agents, screening for compounds that promote Sp3-mediated transcription activation, and identifying those compounds as possible antitumor agents.

The inventions set forth in Claims 4 and 5 are described in documents 4, 5, and 6, and therefore do not appear to be novel. Document 4 describes the use of the histone deacetylase inhibitor Trichostatin A as an antitumor agent, and because Trichostatin A is "a compound that promotes Sp3-mediated transcription activity," document 4 describes an anticancer agent that has "a compound that promotes Sp3-mediated transcription activity" as its active ingredient. Documents 5 and 6 describe the use of histone deacetylase inhibitors as antitumor agents, and because this examination finds that these inhibitors "promote Sp3-mediated transcription activity," documents 5 and 6 describe antitumor agents that have "a compound that promotes Sp3-mediated transcription activity" as their active ingredient.



世界知的所有権機関 国際 事 務 局





特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(51) 国際特許分類7 C12Q 1/02, C12N 15/09, A61K 31/165, A61P 35/00, A61K 45/00 // C12N 5/10 (11) 国際公開番号

WO00/56917

(43) 国際公開日

2000年9月28日(28.09.00)

(21) 国際出願番号

PCT/JP00/01778

A1

(22) 国際出願日

2000年3月23日(23.03.00)

(30) 優先権データ 特願平11/77350

1999年3月23日(23.03.99) JE

(71) 出願人(米国を除くすべての指定国について) 株式会社 中外分子医学研究所(CHUGAI RESEARCH

INSTITUTE FOR MOLECULAR MEDICINE, INC.)[JP/JP] 〒300-4101 美城県新治郡新治村永井153番地2 Ibaraki, (JP)

(72) 発明者;および

(75) 発明者/出願人(米国についてのみ)

曾和義広(SOWA, Yoshihiro)[JP/JP]

〒600-8344 京都府京都市下京区東中航道花屋町下る柳町

335-3 柳小路201 Kyoto, (JP)

織田哲郎(ORITA, Tetsuro)[JP/JP]

〒300-4101 茨城県新治郡新治村永井153番地2

株式会社 中外分子医学研究所内 Ibaraki, (JP)

(74) 代理人

清水初志, 外(SHIMIZU, Hatsushi et al.)

〒300-0847 茨城県土浦市卸町1-1-1 関鉄つくばビル6階

lbaraki, (JP)

(81) 指定国 AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, CA, CH, CN, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EE, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, NO, NZ, PL, PT, RO, RU, SD, SE, SG, SI, SK, SL, TJ, TM, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VN, YU, ZA, ZW, 欧州特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE), OAPI特許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG), ARIPO特許 (GH, GM, KE, LS, MW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM)

添付公開書類

国際調查報告書

(54)Title: METHOD FOR SCREENING ANTICANCER AGENT

(54)発明の名称 抗癌剤のスクリーニング方法

(57) Abstract

By analyzing a mechanism of the expression of cyclin-CDK inhibitory factor having a proliferation inhibitory effect (carcinostatic effect) induced by a histone deacetylase inhibitor (Trichostatin A), it is found out that binding of Sp3 to the Sp1 binding sequence contained in a promoter is important in the expression of the above factor. Thus, a novel antitumor agent can be developed by screening a drug capable of elevating the Sp3 activity.

増殖抑制効果(制癌作用)を有するサイクリン-CDK 阻害因子の発現が、ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤(トリコスタチン A)により誘導される機構を解析することにより、該因子の発現誘導には、プロモーターに存在する Sp1 結合配列に Sp3 が結合することが重要であることが判明した。従って、Sp3 の活性を上昇させる薬剤をスクリーニングすることにより、新たな抗腫瘍剤を開発することが可能となる。

PCTに基づいて公開される国際出願のパンフレット第一頁に掲載されたPCT加盟国を同定するために使用されるコード(参考情報) K 2 カザーフル 五回を K 2 カザーフルンフ L C サントルファ L L スト・ラン L R スーペルト L R スーペルト L T ルクサンマア L U ファフェアルグ L U ファフェアルグ L U ファフェアルグ DM ドミニュンサア DZ アルンニエスマ EE エストインニア EF! コランス GA ガボロ GR 英国 RUSK 2コーキン ロロー・ル ロロー・ガル・ファイオ エオオがデース エオながーニータン ア 4 データン ア 7 TTR LV ラナフィ・ MA モロ コ MC モナコ MD モルドヴァ MG マダゴスコル MK マグドニア旧ユーゴスラヴィア サンヒア ギニア GGGHHLLLI TM トルコタン ・エフタン トルコ タント トルコゲンマー インザニナー マクラ・ギー TT A ログラ・ギー UUS オ国 UUS ウェーコーフ ビエス デーコーフ VVU A 南アンバンエ スターンバンエ スターンバンエ スターンバンエ スターンバンエ スターンバンス 共和国 無利温 マリ モンゴル モー タニア ML MN MR MXZELOZUTO MXZELOZUTO マネカン マネザンコーク ニシューク ニシュール エン・ ニシュール IS IT JP KE ら本 ケニア ール・シーランド ニュー・シーランド ボルキンド ボルトガル ルーマニア ー キルギスタン 北朝鮮 韓国 ドイン デンマーク ΚR

明細書

抗癌剤のスクリーニング方法

技術分野

本発明は、抗腫瘍剤をスクリーニングする方法に関する。より詳しくは、腫瘍抑制のメカニズムに関連する Sp3 タンパク質を標的とした抗腫瘍剤のスクリーニング方法に関する。

背景技術

癌とは、細胞周期、分化および形態を制御する正常な機構を破壊する一連の遺伝子変化の結果生じるものである。様々な癌細胞や形質転換細胞において、脱制御された細胞周期を停止させたり、分化を誘導したり、あるいは異常形態を正常形態に戻しうる能力に基づいて、数多くの天然化合物が単離されている。トリコスタチンA(Trichostatin A;以下 TSA と略す)(Sugita K et al. (1992). Cancer Res., 52, 168-172)および trapoxin (Itazaki H et al. (1990). J. Antibiot., 43, 1524-1532)もまた、脱形質転換能を有する物質として単離された。しかもこれらの物質は、分化および細胞周期の停止も誘導する。しかしながらこれらの物質がいかにしてそのような抗腫瘍活性示すかは不明であった。

近年、ヒストン脱アセチル化酵素(以下 HDAC と略)が、これら薬剤の標的であると考えられている。実際、TSA および trapoxin は、抗腫瘍活性効果が認められたのと同様の濃度において、HDAC 活性を阻害する(Yoshida et al., 1990, J. Biol. Chem., 265:17174-17179; Kijima M et al., 1993, J. Biol. Chem., 268, 22429-22435)。 急速に累積されてゆく知見は、ヒストンおよび非ヒストンタンパク質のアセチル化および脱アセチル化が、真核細胞の転写制御において重要な役割を果たしていることを示唆している(Wolffe AP and Pruss D. (1996). Ce

11、84、817-819、Wade PA et al. (1997). TIBS, 22、128-132; Pazin MJ and Kadonaga JT. (1997). Cell, 89、325-328; Struhl K. (1998). Genes Dev., 12、599-606; Kuo MH and Allis CD. (1998). Bioessays, 20、615-626)。多くの転写因子、転写活性補因子および基本転写開始複合体タンパク質がヒストンアセチル化酵素活性を有していることから、ヒストンのアセチル化が転写開始および促進に重要な役割を果たしていることが明らかとなってきた。また、近年の幾つかの HDAC のクローニングや転写抑制因子、転写抑制補因子が HDAC と複合体を形成することから(Wolffe AP. (1997). Nature, 387、16-17)、HDAC が転写抑制においては重要な役割を果たしていることが徐々に明らかとなってきた。HDAC 阻害剤が抗腫瘍活性を示すことから、HDAC は、その遺伝子産物が細胞増殖の停止や分化を誘導する抗腫瘍遺伝子群の転写を抑制していると考えられるのかも知れない(DePinho RA. (1998). Nature, 391、533-536)。

以前に本発明者らは、分化誘導剤としてよく知られており、mM 濃度で HDAC 阻害剤としても作用する酪酸ナトリウム (sodium butyrate) が、p53 非依存形式でサイクリン-CDK 阻害因子(負の細胞周期調節因子)である p21/WAF1/Cip1 の発現を誘導することを証明した(Nakano K et al. (1997). J. Biol. Chem., 272, 22199-22206)。さらに本発者らは、sodium butyrateと TSA の両方が Sp1 結合配列を介して、p21/WAF1/Cip1 遺伝子プロモーターを活性化させることも報告した (Sowa Y et al. (1997). Biochem. Biophys. Res. Comm., 241, 142-150)。興味深いことに、p21/WAF1/Cip1 プロモーターの Sp1 結合部位は TGF-β、phorbolester、okadaic acid、progesterone あるいは geranylgeranyl-transferase I阻害剤 GCTI-298 による p21/WAF1/Cip1 誘導の際にも関与することが近年報告されている(Datto MB et al. (1995). J. Biol. Chem., 270, 28623-28628; Biggs JR et al. (1996) J. Biol. Chem., 271, 901-906; Adnane J et al. (1998) M ol. Cell. Biol., 18, 6962-6970; Owen GI et al. (1998). J. Biol. Chem., 273, 10696-10701)。これらのうち、TGF-β や GGTI-298 は Sp1 の転写活性を増強

することにより、また、progesterone についても Sp1 および CBP/p300 を介してp21/WAF1/Cip1 の転写を誘導することが報告されている(Li JM et al. (1998). Nucleic Acids Res., 26, 2449-2456; Owen GI et al. (1998). J. Biol. Chem., 273, 10696-10701)。

これらの報告は、Sp1 を介したヒストンアセチル化酵素の活性化による転写誘 *導*を示唆するものと考えられる。ヒストンアセチル化は数多くの遺伝子の転写活 性化に関与すると考えられてきている。逆にヒストン脱アセチル化は転写抑制に 関与すると考えられているが、詳細な機構は明らかでない。近年、転写抑制因子 である N-CoR および SMRT が核内転写因子に結合することにより DNA 配列特異的 に転写を抑制することが報告されている(Horlein AJ et al. (1995). Nature, 3 77, 397-404; Kurokawa R et al. (1995). Nature, 377, 451-454.; Chen JD an d Evans RM. (1995). Nature, 377, 454-457)。また、これらの因子は同時に HD AC と結合して高次複合体を形成することから、ヒストン脱アセチル化を介して クロマチンの構造を強固にすることにより転写が抑制されることが示唆されてい る(Pazin MJ and Kadonaga JT. (1997). Cell, 89, 325-328; Heinzel T et al. (1997). Nature, 387, 43-48; Alland L et al. (1997) Nature, 387, 49-55). 実際に、promyelocytic leukemiaあるいはpromyelocytic leukemia zinc-finge rタンパク質とレチノイン酸受容体の融合タンパク質を用いた検討からは、HDAC の結合が転写抑制に必要であることが示されている(Lin RJ et al. (1998). Nat ure, 391, 811-814; Grignani F et al. (1998). Nature, 391, 815-818; He LZ et al. (1998). Nature Genet., 18, 126-135)。同様の HDAC を介した DNA 配列 特異的な転写抑制機構はMyc/Mad/Max (Hassig C et al. (1997). Cell, 89, 34 1-347; Laherty CD et al. (1997). Cell, 89, 349-356), E2F/Rb (Brehm A et al. (1998). Nature, 391, 597-601; Magnaghi-Jaulin L et al. (1998). Natur e, 391, 601-605; Luo RX et al. (1998). Cell, 92, 463-473)あるいは DNA メ チル化(Nan X et al. (1998). Nature, 393, 386-389; Jones PL et al. (1998). Nature Genet.、19、187-191)の場合にも明らかになっている。しかしながら、Sp1結合配列に結合能をもつ特異的転写用子が、HDAC 阻害剤による転写活性化シグナルを介在するか否かは不明であった。

発明の開示

本発明は、効率的な抗腫瘍剤のスクリーニング方法を提供することを課題とする。

本発明者らは、抗腫瘍効果を示し、また HDAC 阻害剤として知られている TSAが、p21/WAF1/Cip1 プロモーターを Sp1 結合配列を介して活性化することを報告している (Nakano K et al.(1997). J. Biol.chem.,272,22199-22206、Sowa et al.(1997).Biochem.Biophys.Res.Comm.,241,142-150)。本発明者らは、この TS A 刺激に応答した p21/WAF1/Cip1 プロモーターの活性化におけるシグナル伝達に関与する新たな分子を同定することにより、該分子を標的とした抗腫瘍剤のスクリーニングが可能となると考えた。

そこで、本発明者らは、まず、TSA による p21/WAF1/Cip1 プロモーターの活性 化において、該プロモークの Sp1 結合配列に結合している因子を MG63 細胞核抽 出物のゲルシフトアッセイにより検索し、p21/WAF1/Cip1 プロモーターの Sp1 結 合配列には Sp1 および Sp3 (Lania L et al. (1997). Int. J. Biochem. Cell B iol., 29, 1313-1323) か主に結合していることを明らかにした。

また、本発明者らは、p21/WAF1/Cip1 プロモーターとは別に、GAL4 結合配列依存性に活性化されるルシフェラーゼ遺伝子をレポーターとして用いたアッセイ系により Sp1 および Sp3 の機能の検討を行い、GAL4 と Sp3 の融合タンパク質である GAL4-Sp3 の存在下では TSA によるレポーター遺伝子の転写誘導が起こるが、GAL4 と Sp1 の融合タンパク質である GAL4-Sp1 にはこの作用がないことを明らかにした。さらに、Sp3 の種々の欠失変異体を作成することにより、転写活性化ドメインに 2 箇所存在するクルタミンリッチ(g1utamine-rich)ドメインのうち少

なくとも1つを有すれば、TSA 刺激に応答した転写活性化が生じうることを示した。さらに、転写活性化ドメインを欠失したドミナントネカティブ $\mathrm{Sp3}$ の強制発現により、TSA による $\mathrm{p21/WAF1/Cip1}$ プロモーターおよび $\mathrm{Sp1}$ 結合配列活性化プロモーターの活性化が抑制されることを明らかにした。

これら結果は、TSAによるp21/WAF1/Cip1の転写活性化にSp3が関与していることを証明するものであり、さらに、Sp3を標的として抗腫瘍剤のスクリーニングが可能であることを示唆するものである。本発明者らにより開発された、GAL4結合配列依存性に活性化されるルンフェラーゼ遺伝子をレポーターとして用いたアッセイ系は、効率的な抗腫瘍剤のスクリーニングに特に好適である。

本発明は、腫瘍抑制のメカニズムに関連する Sp3 タンパク質を標的とした抗腫 瘍剤のスクリーニング方法、特に GAL4 結合配列依存性に活性化されるルシフェ ラーゼ遺伝子をレポーターとして用いて効率的に抗腫瘍剤をスクリーニングする 方法に関する。

より具体的には、本発明は、

- (1) 抗腫瘍剤をスクリーニングする方法であって、
- (a) (i) Sp3 タンパク質の転写活性化能を有する領域および異種タンパク質の DNA 結合能を有する領域を含む融合タンパク質をコードする DNA を発現可能に含む第一のベクター、並びに(ii)該異種タンパク質の結合配列を含み、該融合タンパク質が結合した際に活性化する発現制御配列およびその下流に機能的に結合されたレポーター遺伝子を含む第二のベクター、を保持する細胞を提供する工程、
 - (b) 該細胞に対し、被検試料を接触させ、該レポーター活性を測定する工程、
 - (c) 被検試料を該細胞に接触させない場合(対照)と比較して、該レポーター活性を増加させる化合物を選択する工程、を含む方法、
 - (2) 異種タンパク質が GAL4 タンパク質、LexA タンパク質、またはテトラサイクリンリプレッサータンパク質である、(1) に記載の方法、

(3) レポーター遺伝子がルッフェラーセ、クロラムフェニコールアセチルトランスフェラーゼ、3-カラクトシターセ、ヒト成長ホルモン、または分泌型アルカリホスファターゼをコードする、(1)または(2)に記載の方法、

- (4) Sp3 を介する転写活性を促進する化合物を有効成分とする抗腫瘍剤、
- (5) (1)から(3)のいずれかに記載のスクリーニングにより単離しうる、(4)に記載の抗腫瘍剤、に関する。

実施例に示したように、Sp3の転写活性化ドメインは、p21/WAF1/Cipプロモークーからの転写を上昇させる作用を有する。p21/WAF1/Cipは細胞増殖抑制効果を有しており、制癌作用を有することが知られている TSA により発現が上昇する遺伝子である。また、p21/WAF1/Cipの発現は、抗腫瘍効果と深い関連がある複数の HDAC 阻害剤により、Sp1 結合配列を介して誘導されることが知られている。本発明により、この Sp1 結合配列を介した転写誘導には、Sp3 が関与していることが示されたことから、Sp3 の活性を促進させることにより細胞の異常増殖を抑制し、腫瘍に対する治療や予防を行うことが可能となると考えられる。

本発明の抗腫瘍剤のスクリーニング方法は、このように Sp3 が TSA 刺激による 抗腫瘍効果の発現のシグナル伝達に関与するという、本発明者らにより見出され た知見に基づくものである。さらに、本発明者らにより開発されたレポーター遺 伝子を利用した Sp3 の転写活性の検出系が、TSA のような抗腫瘍効果を示す化合 物のスクリーニングに利用しうるという知見にも基づくものである。

本発明のスクリーニング方法の原理は、以下のごとくである。まず、Sp3 タンパク質の転写活性化能を有する領域および異種タンパク質の DNA 結合能を有する領域を含む融合タンパク質をコードする DNA を発現可能に含む第一のヘクター、並びに該異種タンパク質の結合配列を含み、該融合タンパク質が結合した際に活性化する発現制御配列およびその下流に機能的に結合されたレポーター遺伝子を含む第二のベクターを構築し、これを細胞に導入する。この細胞では、第一のベクターに由来して、Sp3 タンパク質の転写活性化能を有する領域および異種タン

パク質の DNA 結合能を有する領域を含む融合タンパク質が発現し、その中の異種タンパク質由来の DNA 結合領域を介して第三のパクター上の発現制御領域に結合する。この細胞に、TSA のような抗腫瘍のシウナルに正に作用する化合物が接触した場合、該融合タンパク質の中の Sp3 タンパフ質由来の転写活性化領域を介して第二ペクターの発現制御領域の下流に存在するレポーター遺伝子の転写を活性で第二ペクターの発現制御領域の下流に存在するレポーター遺伝子の転写を活性化するか、あるいは転写抑制を解除することにより、該レポーター遺伝子の発現化するか、あるいは転写抑制を解除することにより、該レポーター遺伝子の発現が誘導される。使って、このレポーター遺伝子を用いたアッセイ系を利用すれば、が誘導される。使って、このレポーター遺伝子を用いたアッセイ系を利用すれば、が検試料を細胞に接触させた後の細胞におけるレポーター活性を検出することに被検試料を細胞に接触させた後の細胞におけるレポーター活性を検出することにより、効率的に Sp3 を介した抗腫瘍剤のスクローニンクを行うことができるのである。

即ち、本発明のスクリーニング方法は、(a) (i) Sp3 クンパク質の転写活性化能を有する領域および異種タンパク質の DNA 結合能を有する領域を含む融合タンパク質をコードする DNA を発現可能に含む第一のベクター、並びに (ii) 該異種タンパク質の結合配列を含み、該融合タンパク質が結合した際に活性化する発現制御配列およびその下流に機能的に結合されたレポーター遺伝子を含む第二のベクター、を保持する細胞を提供する工程、(b) 該細胞に対し、被検試工のベクター、を保持する細胞を提供する工程、(c) 被検試料を該細胞に料を接触させない場合(対照)と比較して、該レポーター活性を増加させる化合物を接触させない場合(対照)と比較して、該レポーター活性を増加させる化合物を選択する工程、を含むものである。

本発明のスクリーニングに用いられる第一のベクターは、Sp3タンパク質の転写活性化能を有する領域および異種タンパク質の DNA 結合能を有する領域を含む配合タンパク質をコートする DNA を発現可能に含む。「発現可能に含む」とは、融合タンパク質をコードする DNA がベクターにおいてその発現を保証する発現制 御領域 (例えば、プロモーターやエンハンサー) に結合していることを指す。例 えば、融合タンパク質をコードする DNA は、ベクター内で CMV ブロモーターなど えば、融合タンパク質をコードする DNA は、ベクター内で CMV ブロモーターなど の適当なプロモーターの下流に挿入されており、該ベクターは、動物細胞や酵母

細胞などの適当な宿主細胞内において、該融合タンパク質を発現することができる。

第一のペクターにより発現される融合タンパク質に含まれる Sp3 クンパク質の 転写活性化能を有する領域としては、TSA 刺激に応答して転写活性化しうる領域 を含む限り特に制限はない。好ましくは、転写活性化ドメインの少なくとも一部 を含み、DNA 結合ドメインの少なくとも一部を欠失している。 Sp3 由来の DNA 結合領域は存在していても、本発明のスクリーニングは可能であるが、該領域が存在するとこれを含む融合タンパク質が内在性の種々の Sp1 結合配列に結合するため好ましくない。ヒト Sp3 クンパク質であれば、好ましくは 2 つの glutamine-rich 領域(アミノ酸 $10\sim123$ およびアミノ酸 $223\sim358$)のいずれか一方または双方を含み、Zinc finger 領域(アミノ酸 495 から 517、525 から 547、および 555 から 575)の少なくとも一部を含まない(Chris,K. et al.,1992,J. Biol. Chem.,12:4251-4261)。 Sp3 クンパク質が由来する生物種に制限はない。例えば、ヒトや哺乳動物由来の Sp3 クンパク質、その他の生物種の Sp3 クンパク質を用いることができる。

具体的には、図 3 に示した、ヒト Sp3 タンパク質のアミノ酸配列の 1 から 398 位の領域、81 から 398 位の領域、161 から 398 位の領域、1 から 320 位の領域、1 から 240 位の領域、1 から 160 位の領域を本発明において好適に利用することができるが、これらに制限されない。

また、第一のベクターにより発現される融合タンパク質に含まれる異種タンパク質としては、特定の DNA 配列に特異的に結合しうるタンパク質であれば特に制限はない。例えば、GAL4 タンパク質、LexA タンパク質(Gyuris, J. et al., 1993, Cell, 75: 791-803)、テトラサイクリン リプレッサー クンパク質(<math>Tet R)(Manfred, G. et al., 1992、Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 89: 5547-5551)などが挙げられるが、これらに制限されない。また、特定の DNA 配列に特異的に結合しうる限り、これらタンパク質の部分ペプチドであってもよい。異種タンパ

ク質の DNA 結合能を有する領域としては、例えば、GAL4 タンパク質の DNA 結合ドメイン(例えばアミノ酸 1~94、または 1~147)、LexA タンパク質の DNA 結合ドメイン (例えばアミノ酸 1~202) (Erica, A. et al., 1992, Mol. Cell. Bi ol., 12: 3006-3014)、テトラサイクリン リプレッサー クンパク質(Tet R)の DNA 結合ドメイン (Manfred, G. et al., 1992, Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 89: 5547-5551) などを含むペプチドが挙げられるが、これらに制限されない。

本発明の第二のベクターは、異種タンパク質の結合配列を含み、該融合タンパク質が結合した際に活性化する発現制御配列およびその下流に機能的に結合されたシボーター遺伝子を含む。

本発明の第二のベクターの構築に用いられる異種タンパク質の結合配列としては、第一の発現ベクターから発現誘導された融合タンパク質が特異的に結合しうる配列であれば特に制限はない。例えば、融合タンパク質が GAL4 DNA 結合領域を含む場合、結合配列としては、例えば「5'-cggasgacwgtcstccg-3'; s=c またはg,w=a または t」(Marmorstein, R. et al., 1992、Nature 356:408-414)が挙げられる。また、融合タンパク質が LexA DNA 結合領域を含む場合、結合配列としては、例えば「5'-ctgtnnnnnnnnacag-3'; n=a、t、g、または c」(Erica, A. et al., 1992,Mol. Cell. Biol., 12: 3006-3014)が挙げられる。また、融合タンパク質がテトラサイクリン リプレッサー タンパク質(Tet R)の DNA 結合ドメインを含む場合、結合配列としては、例えば「5'-tccctatcagtgatagaga-3'」(Manfred, G. et al., 1992、Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 89: 5547-555 1)が挙げられる。

該結合配列は、ベクターが導入される細胞の内因性クンパク質により認識されないものを用いることが好ましい。内因性タンパク質により認識される配列を用いた場合には、内因性タンパク質の作用に応答したレポーター活性が検出されるおそれがあるため好ましくない。

診結合配列に第一のペクケー由来の融合タンパク質が結合した際の、下流のレポーター遺伝子の発現を保証するために、第二のペクターにおける発現制御配列には、該結合配列以外に、プロモーター配列(例えば、TATA配列、Kozak 配列などを含みうる)を含むことができる。

第一のベクターからの融合タンパク質がその DNA 結合能を有する領域として、GAL4 タンパク質の DNA 結合ドメインを用いる場合、第二のベクターに用いられる発現制御配列としては、例えば、5×GAL4 結合配列、E1B 最小プロモーターおよび TATA 配列を含む DNA 配列を用いることができる。

*発明の第二のベクターにおいては、該発現制御配列の下流にレポーター遺伝子を機能的に結合する。「機能的に結合」とは、レポーター遺伝子が、第一のベクター由来の融合タンパク質の発現制御配列への結合に応答して発現するように、 該発現制御配列に結合していることを指す。

本発明において用いられるレポーター遺伝子としては、その発現産物が検出可能であれば特に制限はないが、ノーザン解析やウェスタン解析などの煩雑な操作を行わずに該発現産物を検出できるものが好ましい。好ましいレポーター遺伝子としては、例えば、ルシフェラーゼ遺伝子、クロラムフェニコールアセチルトランスフェラーゼ(CAT)遺伝子、 β -ガラクトシダーゼ(β -Gal) 遺伝子、ヒト成長ホルモン(β -Gal) 遺伝子、ウルモン(β -Gal) 遺伝子、ヒト成長ホルモン(β -Gal) 遺伝子、分泌型アルカリホスファターゼ(SEAP)遺伝子などが挙げられる。

本発明のスクリーニングに利用する細胞としては特に制限はなく、例えばヒトまたは哺乳動物の細胞、例えば p53 が遺伝的に欠失した MG63 細胞 (ヒト骨肉腫由来の細胞株)を用いることができる。また、酵母細胞や大腸菌などの微生物細胞を用いることもできる。ベクターの作成のための遺伝子操作や細胞へのベクターの導入などは、当業者に公知の方法を利用することができる。

本発明のスクリーニングにおいては、上記2つのベクターが導入された細胞に 対し、被検試料を接触させ、レポーター活性を測定する。 スクリーニンクに用いる被検試料としては、例えば、精製タンパク質(抗体を含む)、遺伝子ライブラリー、遺伝子ライブラリーの発現産物、合成ペプチドのライブラリー、細胞抽出液、細胞培養上清、合成低分子化合物のライブラリー、天然物抽出液などが挙げられるが、これらに制限されない。細胞への被検試料の接触は、被検試料の種類に応じて、被検試料の細胞培養培地への添加や被検試料の細胞内への導入(遺伝子導入も含む)などの方法で行うことができる。

レボーター活性は、レボーター遺伝子の種類に応じて当業者に公知の方法により検出することができる。例えば、レボーター遺伝子としてルシフェラーゼ遺伝子を用いた場合には、細胞抽出液にルシフェラーゼの基質を加え、酵素反応により発生する発光量を化学発光検出器により検出することができる。また、レボーター遺伝子として CAT 遺伝子を用いた場合には、細胞抽出液中の CAT 量を抗 CAT 抗体を用いた ELISA 法により検出することができる。 β -ガラクトシダーゼ遺伝子を用いた場合には、細胞抽出液に β -ガラクトシダーゼの基質を加え、酵素反応により発生する発光量を化学発光検出器により検出することができる。ヒト成長ホルモン(hGH)遺伝子を用いた場合には、細胞培養液中の hGH 量を抗 hGH 抗体を用いた ELISA 法により検出することができる。また、分泌型アルカリホスファターゼ(SEAP)遺伝子を用いた場合には、細胞培養液にアルカリホスファターゼの基質を加え、酵素反応により発生する発光量を化学発光検出器により検出することができる。

レポーター活性の測定の結果、被検試料を接触させない場合(対照)に比ベレポーター活性の有意な上昇が認められれば、用いた被検化合物は腫瘍の増殖を抑制する化合物の候補となる。

本発明において、抗腫瘍効果に関連する TSA からのシグナル伝達において、Sp 3 を介する転写活性が促進することが示された。この事実は、Sp3 を介する転写活性を促進することができる化合物が、抗腫瘍効果を有しうることを示すもので

ある。従って、本発明は、また、Sp3 を介する転写活性を促進する化合物を有効 成分とする抗腫瘍剤に関する。

このような Sp3 活性を促進する化合物としては、種々の作用点を有するものが考えられる。例えば、Sp3 に直接作用してその機能を促進するもの、Sp3 に結合する分子に作用して間接的に Sp3 の機能を促進するもの、Sp3 の DNA への結合から転写に至るまでの反応に関与するタンパク質群に作用するもの、Sp3 と HDACとの相互作用を阻害するもの、HDACの活性を阻害するもの、Sp1 の機能を阻害するものが含まれる。このような化合物は、上記の本発明のスクリーニングにより単離することが可能である。

本発明の Sp3 を介する転写活性を促進する化合物は、広範囲の腫瘍に適用可能と考えられる。特に、Sp3 を介した p21/WAF1/Cip1 の発現誘導は p53 非依存的であることから、p53 に変異または欠失を持つ腫瘍に対しても適用できることが期待される。

本発明の Sp3 を介する転写活性を促進する化合物を、医薬品として用いる場合には、公知の製剤学的製造法により製剤化して用いることが可能である。例えば、薬理学上許容される担体もしくは媒体、具体的には、滅菌水や生理食塩水、植物油、乳化剤、懸濁剤、界面活性剤、安定剤などと適宜組み合わせて製剤化して投与することが考えられる。

患者への投与は、化合物の性質に応じて、例えば経皮的、鼻腔内的、経気管支的、筋内的、静脈内、または経口的に行われうる。投与量は、患者の年齢、体重、症状、投与方法などにより変動するが、当業者であれば適宜適当な投与量を選択することが可能である。また、該化合物が DNA によりコードされうるものであれば、該 DNA を遺伝子治療用ペクターに組込み、遺伝子治療を行うことも考えられる。投与量、投与方法は、患者の体重や年齢、症状などにより変動するが、当業者であれば適宜選択することが可能である。

図面の簡単な説明

図 1 は、TSA 依存性の p21/WAF1/Cip1 プロモーター活性化に必要な Sp1 結合配列への Sp1 まよび Sp3 の結合を示す電気泳動写真である。TSA 刺激(レーン 5-9) および未刺激(レーン 1-4)の MG63 細胞核抽出液にて EMSA を行った。TSA 依存性のプロモーター活性化に必要な Sp1 結合配列(転写開始点より-87~-72)を DNA プローブとした。各バンドに対するスーパーシフトアッセイを抗 Sp1 抗体(レーン 2, 4, 6 または 8)あるいは抗 Sp3 抗体(レーン 3, 4, 7 または 8)を用いて行った。Sp1 および Sp3 のバンドの位置を図左に示した。

図 2 は、Sp3 による TSA 依存性の転写誘導を示す。 $2.5 \mu g$ の GAL4-Sp1 あるいは GAL4-Sp3 プラスミドと $0.5 \mu g$ の pG5-luc レポータープラスミドを MG63 細胞に同時にトランスフェクションした。24 時間後に TSA (500 ng/ml)を加え、さらに 24 時間後に細胞を溶解してルシフェラーゼ活性を測定した。TSA による転写誘導は TSA 未刺激の対照値との比で示した。実験は 3 連で行い、示したデータは 5 回の実験の代表的な結果である。

図3は、Sp3のglutamine-rich下メインを介するTSA依存性の転写誘導を示す。各種GAL4-Sp3の欠失変異タンパク質の配列を図に示した。また、各タンパク質をMG63細胞に発現させた時のTSAによる転写誘導の割合を図右にそれぞれ示した。トランスフェクションおよびTSA刺激は図2と同様に行った。実験は3連で行い、示したデータは3回の実験の代表的な結果である。

図4は、ドミナントネガティブ Sp3 による TSA 依存性の p21/WAF1/Cip1 プロモーターあるいは Sp1 プロモーター転写誘導の抑制を示す。0、1.25、2.5 または 5.0 μ g の pCMV-DNSp3 を、対照の pCMV3.1 を加えてプラスミト量を合計 5.0 μ g に 調整し、0.5 μ g のレポータープラスミドと同時に MG63 細胞にトランスフェクションした。レポータープラスミドには pWWP(a)、pWPdel-BstXI(b)、Sp1-luc(c)あるいは mtSp1-luc(d)を用いた。トランスフェクションおよび TSA 刺激は 図 2 と同様に行った。実験は 3 連で行い、3 回の実験の代表的な結果を示した。

発明を実施するための最良の形態

以下、本発明を実施例により具体的に説明するが、本発明はこれら実施例に制限されるものではない。

[実施例 1] p21/WAF1/Cip1 プロモーターの Sp1 結合配列のゲルシフトアッセイ

TSA は p21/WAF1/Cip1 遺伝子のプロモーター領域に存在する Sp1 結合配列を介して、p53 非依存性に p21/WAF1/Cip1 遺伝子の転写を誘導する。そこで、この誘導機序を解明する目的で、TSA による転写誘導に必須である転写開始点より-87~-72 bpを p21/WAF1/Cip1 プローブとして以下のようにしてゲルシフトアッセイ(Elctrophoretic mobility shift assay; EMSA)による結合タンパク質の解析を行った。

(1-1) 細胞培養および核抽出液の調製

まず MG63 細胞を、10%牛胎仔血清(GIBCO BRL)を含む DMEM 培地(GIBCO BRL)を用いて、5% CO2大気湿条件下、37℃にて培養した。この細胞の核抽出液を、Dign am らの方法(Dignam JD et al. (1983). Nucleic Acids Res., 11, 1475-1489) に従い、TSA 刺激および未刺激細胞より調製した。まず、ディッシュ(100 mm)に培養した細胞を 500 ng/ml の TSA (和光純薬)で 24 時間インキュベートした後、0.5 mM 4-(2-aminoethyl)benzenesulfonyl fluoreide・HC1 (p-ABSF)(和光純薬)を含む冷 PBS で 2 回洗浄し、ディッシュより掻き取って、10 mM KCl、1.5 mM Mg Cl₂、0.5 mM DTT、5 mM NaF、5 mM NaVO4、0.5 mM p-ABSF を含む 10 mM Hepes/K OH 緩衝液(pH7.9)に懸濁した。水上で 10 分間静置した後、グウンス型ホモジナイザーを用いて細胞を破砕した。3,000 rpm、10 分間、4℃で遠心の後、核を 400 mM NaCl、1.5 mM MgCl、25% glycerol、0.1 mM EDTA、1mM DTT、5 mM NaF、5 m M NaVO4、0.5 mM p-ABSF を含む 20 mM Hepes/KOH 緩衝液(pH7.9)に再懸濁し、4℃にて 60 分間撹拌、核成分を溶出した。その溶出液を 35,000 rpm、30 分間、4℃にて 60 分間撹拌、核成分を溶出した。その溶出液を 35,000 rpm、30 分間、

4°Cで遠心し、その上清を核抽出液として回収した。書られた核抽出液は、400 m M KCl、20% glycerol、0.1 mM EDTA、1 mM DTT、5 mM NaF、5 mM NaVO₄、0.5 mM p-ABSF を含む 20 mM Hepes/KOH 緩衝液(pH7.9)に対して透析を行い、-80°Cに保存した。

次に、p21/WAF1/Cip1 遺伝子の転写開始点より-87~-72 bp に存在する TSA 依存性のプロモーター配列(5'-CGGGTCCCGCCTCCTT-3'/配列番号: 1)をもとにオリゴヌクレオチド(5'-AGCTCGGGTCCCGCCTCCTT-3'/配列番号: 2、および 5'-TCGAAA GGAGGCGGGACCCG-3'/配列番号: 3)を合成し、アニール後、[α -3³P] dCTP、 Kle now Fragment (TAKARA) を用いて DNA をラベルし、これを DNA プローブとした。上記の核抽出液(8 μ g)を 20 μ l の反応液(8 mM Tris/HCl (pH7.9)、24 mM Hepes/KCl (pH7.9)、120 mM KCl、24% glycerol、2 mM EDTA、2 mM DTT、1 mg poly (dI-dC)(Pharmacia))中で 5 分間インキュベートした後、33P ラベルした DNA プローブ(比活性 50,000 cpm/ μ l)を加えてさらに 20 分間結合反応を行った。なお、後述の抗体によるスーパーシフトの実験では、さらに 2 μ g の抗 Sp1 あるいは 1 μ g 抗 Sp3 抗体(Santa Cruz、sc-59X and sc-644X)を加えて 20 分間インキュベートした。反応液を 6%アクリルアミドゲルにて泳動し、BAS 2000 (Fujix)を用いて p21/WAF1/Cip1 プローブに結合するタンパク質を検出した。

(1-3) 結果

TSA 刺激および未刺激の MG63 細胞より調製した核抽出液を p21/WAF1/Cip1 プローブと反応させ、上記のゲルシフトアッセイを行ったところ、2 本の特異的なバンドが検出された(図1、1 および 5)。ついで、抗 Sp1 あるいは抗 Sp3 抗体を用いて、上述の方法によりスーパーシフトによる各バンドの反応性を見たところ、抗 Sp1 抗体により上側のバンドの一部、抗 Sp3 抗体で上側のバンドの一部と下側の2 本のバンドがシフトし、抗 Sp1 抗体と抗 Sp3 抗体を両方加えることで、すべてのバンドのシフトが観察された(図1)。Sp3 の 2 本のバンドはそれぞれ高分子

(97 kDa) と低分子 (60 kDa と 65 kDa) の Sp3 タンパク質に田来すると考えら れる(Gustav H. et al. 1994, EMBO J., 13, 3843-3851: Addanki P. B. et al. 1997, Nucleic Acids Res., 25, 2012-2019)。したがって、MG63 細胞の核抽出 液に存在する Sp1 および Sp3 が実際に p21/WAF1/Cip1 の Sp1 結合部位と結合する ことが示され、Sp1 および Sp3 が TSA 依存性の転写誘導に関与することが示唆さ れた。これらの結果は以前の本発明者らの報告(Nakano K et al. (1997). J. Bi ol. Chem., 272, 22199-22206)および他のグループの報告(Datto MB et al. (19 95). J. Biol. Chem., 270, 28623-28628; Adnane J et al. (1998) Mol. Cell. Biol., 18, 6962-6970)と一致した。しかしながら、TSA による刺激の有無によ り Sp1 および Sp3 の DNA 結合量には差が認められなかった(図 1)。このことから、 TSA 依存性の転写誘導は Sp1 あるいは Sp3 の発現量あるいは DNA 結合能の変化以 外の機序によるものと推察された。これは同じくHDAC 阻害剤である sodium but yrate を用いた本発明者らの報告(Nakano K et al. (1997). J. Biol. Chem., 2 72, 22199-22206)および TGF-β 依存性の転写誘導をみた Datto らの報告(Datto MB et al. (1995). J. Biol. Chem., 270, 28623-28628)と一致したが、geranyl geranyl-transferase I 阻害剤を用いた Adnane らの報告(Adnane J et al. (199 8) Mol. Cell. Biol., 18, 6962-6970)とは異なる。

[実施例2] GAL4 結合配列を用いたレポーターアッセイ

TSA は、p21/WAF1/Cip1 プロモーターの Sp1 結合配列を介して転写誘導を起こすのと同様に、SV40 プロモーターに挿入したコンセンサスな 3xSp1 結合配列を介しても転写誘導を起こすことができる(Sowa Y et al. (1997). Biochem. Biophys. Res. Comm., 241, 142-150)。そこで、この Sp1 結合配列に結合が認められた Sp1 あるいは Sp3 が実際に TSA 刺激による転写誘導に関与するかどうかを、GA L4 結合配列を用いたレポーターアッセイ系で検討した。すなわち、Sp1 や Sp3 の作用を強制発現で見ようとする際に、Sp1 結合配列をレポーター遺伝子のプロモーターとして用いても内因性の Sp1 あるいは Sp3 の作用を検出しまうため、バク

テリアの GAL4 クンパク質の DNA 結合ドメインと Sp1 あるいは Sp3 との融合タンパク質を強制発現させ、GAL4 結合配列依存性の転写活性が TSA で誘導されるかどうか、また、その誘導が Sp1 と Sp3 のいずれで制御されるのかを解析した。 (2-1) 発現プラスミドおよびレポータープラスミド

GAL4 タンパク質の DNA 結合ドメインの C 末端側に Sp1 (アミノ酸 83~778)、 全長 Sp3 (アミノ酸 1~653)、転写活性化ドメイン欠失 Sp1 (アミノ酸 592~778) (DNSp1) および転写活性化ドメイン欠失 Sp3 (アミノ酸 399~653) (DNSp3) を それぞれ融合したタンパク質を発現させる目的で、GAL4 結合ドメインを含む pM ベクター(Clontech)に各遺伝子を挿入し、pM-Sp1、pM-Sp3、pM-DNSp1 および pM-DNSp3 を作成した。各 Sp1 および Sp3 遺伝子は PCR 法により増幅した。具体的に は、pM-Sp1 の作製には、Sp1-S プライマー (5'-acaggtgagcttga-3'/配列番号: 4) および Sp1-AS プライマー (5'-tcagaagccattgcc-3'/配列番号:5) を用い て、pPacSp1を鋳型にして増幅を行った (Kadonaga, J.T. et al., 1987, Cell, 51: 1079-1090)。pM-DNSp1の作製には、DNSp1-S プライマー (5'-ccaaaaaaagaa gagaaaggtaacccggcgg-3'/配列番号:6) および DNSp1-AS プライマー (5'-gaagc atgcacctgc-3'/配列番号:7)を用いて、pM-Sp1を鋳型にして増幅を行った(K adonaga, J.T. et al., 1987, Cell, 51: 1079-1090)。pM-Sp3の作製には、Sp 3-18F プライマー (5'-cgggatccattccaagtgctgct-3'/配列番号:8) および Sp3-2R プライマー (5'-ataggatccttactccattgtctcatttcc-3'/配列番号:9)を用い て、Marathon-Ready cDNA (Human Fetal Liver) (Clontech, Cat. #7403-1) を 鋳型にして増幅を行った (Chris, K. et al., 1992, J. Biol. Chem., 12: 425 1-4261)。pM-DNSp3の作製には、Sp3-11Fプライマー (5'-cgggatccaactctataga ttctgct-3'/配列番号:10) および Sp3-2R プライマー(配列番号:9) を用いて、 pM-Sp3 を鋳型にして増幅を行った (Chris, K. et al., 1992, J. Biol. Chem., 12: 4251-4261)。PCR の反応は、全て「94℃ 1 分、55℃30 秒、72℃30 秒」を 30 サイクルの条件で行った。PCR の増幅産物は pM ベクターに挿入し、DNA シー

ケンサーABI PRISM 355 (Applied Bio System)により塩基配列の確認を行った。トランスフェクション試験の対照としては GAL4 DNA 結合ドメインのみを発現する pM を用いた。GAL4 依存性の転写活性の指標となるレポータープラスミド (pG 5-luc) としては、5xGAL4 結合配列、E1B 最少プロモーターおよび TATA 配列をルシフェラーゼ遺伝子の上流に挿入した pGL3-Basic Vector (Promega)を用いた。 (2-2) トランスフェクションアッセイ

Sp1 あるいは Sp3 の各種 GAL4 融合タンパク質をコートする上記発現ベクターは、コンセンサスな 5x GAL4 結合配列の下流にルシフェラーゼレボーター遺伝子を持つ上記ベクターとともに、SuperFect を用いた QIAGEN 社の方法に従って MG6 3 細胞にトランスフェクトした。すなわち、12 穴プレートに 0.8×10^6 個/well の細胞を捲き、24 時間後に、あらかじめ 0.5 μ g のレポータープラスミド、2.5 μ g の発現ベクターおよび SuperFect を混合した反応液を MG63 細胞に添加して 2 時間反応させた。引き続き通常の培養条件下で 24 時間培養し、500 ng/ml の TSA 存在下あるいは非存在下(対照)でさらに 24 時間培養した後、細胞を溶解しルシフェラーゼ基質(Promega)を用いてルシフェラーゼ活性を LB-96P(Berthold)で測定した。測定値は同一タンパク量当たりの活性に換算して表し、TSA による転写誘導は TSA 非存在下の対照値との比(TSA による活性化倍率)として計算した。(2-3) 結果

その結果、TSA 未刺激の状態でも GAL4-Sp1 および GAL4-Sp3 とも転写活性を示したが、これは Sp1 および Sp3 自体に存在する転写活性化ドメインを介したものと推察された。ところが、TSA で刺激した際には、GAL4-Sp3 を発現させた細胞では著明なルシフェラーゼ遺伝子の転写誘導作用が見られたのに対し、GAL4-Sp1 を発現させた細胞では対照の GAL4 と同じ割合の増強しか認められなかった(図2)。さらに、上記した N 末端側の転写活性化ドメインを欠失した Sp1 あるいはSp3 と GAL4 の DNA 結合ドメインとの融合タンパク質について同様の検討を行ったところ、GAL4-DNSp3 はもはや TSA 依存性の転写誘導作用を示すことができな

かった(図2)。このことから、TSA 刺激による p21/WAF1/Cip1 遺伝子の転写誘導はプロモーターの Sp1 結合配列に結合した Sp3 の転写活性化ドメインを介して起こることが示唆された。

[実施例3] Sp3のTSA応答領域の同定

つぎに、Sp3 の TSA 応答領域を同定する目的で、GAL4 の DNA 結合ドメインと融合した種々の Sp3 欠失変異体を用いたレポーターアッセイを行った。まず、pM-Sp3 (1-398)、pM-Sp3 (81-398)、pM-Sp3 (161-398)、pM-Sp3 (241-398)、pM-Sp3 (1-80)、pM-Sp3 (1-160)、pM-Sp3 (1-240)および pM-Sp3 (1-320)を作成した。それぞれ、記載のアミノ酸番号に相当する領域を持つ。各 Sp1 および Sp3 遺伝子は PCR 法により増幅した後、pM ベクターに挿入し、DNA シーケンサーABI PRISM 355 (Applied Bio System)により塩基配列の確認を行った。なお、PCR 法による増幅に用いたプライマー配列を表 1 に示す。PCR は鋳型に pM-Sp3 を用い、「98℃15 秒、65℃2 秒、74℃30 秒」を 25 サイクルの条件で行った。

1 32

```
プラスミド プライマー
pM-Sp3(1-398)
     Sp3-18F
     (5'-cgggatccattccaagtgctgct-3'/配列番号:8)
     Sp3(1194-1177)AS + BamHI
     (5'-gcggatcccactgtaactgtttgtag-3'/配列番号:11)
pM-Sp3 (81-398)
     Sp3(241-260) S + BamHI
     (5'-cgggatccggctctaatcaaaccttact-3'/配列番号:12)
     Sp3(1194-1177)AS + BamHI (配列番号:11)
pM-Sp3 (161-398)
     Sp3(481-500) S + BamHI
     (5'-cgggatccggcattaatgccgacggaca-3'/配列番号:13)
     Sp3(1194-1177)AS + BamHI (配列番号:11)
pM-Sp3 (241-398)
     Sp3(721-740) S + BamHI;
     (5'-cgggatcccagggaaattatatccagtc-3'/配列番号:14)
     Sp3(1194-1177)AS + BamHI (配列番号:11)
pM-Sp3 (1-80)
     Sp3-18F (配列番号:8)
     Sp3(240-221)AS + BamHI
     (5'-cgggatccaggaatgatctgaatttgac-3'/配列番号:15)
pM-Sp3 (1-160)
     Sp3-18F (配列番号:8)
     Sp3(480-461)AS + BamHI
     (5'-cgggatcctgcagtcattgtctgagaac-3'/配列番号:16)
pM-Sp3 (1-240)
     Sp3-18F (配列番号:8)
     Sp3(720-701)AS + BamHI
     (5'-cgggatccaagatctgaagaatgaacct-3'/配列番号:17)
pM-Sp3 (1-320)
     Sp3-18F (配列番号:8)
     Sp3(960-941)AS + BamHI
     (5'-cgggatccaaaggttccaggattcagct-3'/配列番号:18)
```

トランスフェクション試験の対照としては GAL4 DNA 結合ドメインのみを発現する pM を用いた。GAL4 依存性の転写活性の指標となるレポータープラスミド (pG5-luc) としては、上記の pGL3-Basic Vector (Promega)を用いた。

これらの遺伝子を用いて、上記と同様の方法によりトランスフェクションを行い、TSA 刺激による転写誘導がこれらの変異体によって起こるかどうかを測定した。その結果、Sp3 の DNA 結合ドメインを欠失した GAL4-Sp3 (1-398)のみでも TSA 依存性の転写誘導が起こり、その誘導は GAL4-Sp3 よりむしろ強いものであった(図3)。これは先に述べた N 末端側の転写活性化ドメインの欠失で TSA 刺激による転写誘導が消失する結果(実施例2)と相関した。また、Sp3 に存在する 2つの glutamine-rich ドメインのうちの C 末端側のドメインと DNA 結合トメイン の間に存在する抑制性ドメインが Sp3 の転写活性を抑制するという報告とも相関を示唆した(Dennig J et al. (1996). EMBO J., 15, 5659-5667; Majello B et al. (1997). J. Biol. Chem., 272, 4021-4026)。

また、図3に示すように、Sp3 (1-398)のN末端側もしくはC末端側から欠失を加えた場合、GAL4-Sp3 (241-398)および GAL4-Sp3 (1-80)において TSA 刺激による誘導が消失した。これらの結果から、Sp3 (81-160) が TSA 刺激による転写誘導に重要と考えられたが、GAL4-Sp3(81-160)のみでは活性はほとんど認められなかった。GAL4-Sp3 (241-398)および GAL4-Sp3 (1-80)とも完全な glutamine-ri chドメインを欠くことから、TSA による転写誘導には Sp3 の転写活性化ドメインの2 つの glutamine-richドメインのうち少なくともいずれか一方が存在することが必須であることが示された。また、Sp3 の 80-160 の部分には TSA 刺激による転写誘導に重要な領域の一部が含まれていることが考えられる。

[実施例4] トミナントネガティフ Sp3

さらに、Sp3 が p21/WAF1/Cip1 の Sp1 結合配列を介する TSA の転写誘導に実際に関与するかいなかを検討する目的で、転写活性化ドメインを欠失し、DNA 結合ドメインのみをもつ Sp3 変異体(DNSp3) (アミノ酸 399~653)を pCMV3.1-His-C

(Invitrogen)に組み込んだ pCMV-DNSp3 を作成した。対照としては pCMV3.1 を用 いた。レポータープラスミドには以前に報告した p21/WAF1/Cip1 プロモーター、 TSA に依存性の p21/WAF1/Cip1 最少プロモーターをそれぞれルシフェラーゼ遺伝 子の上流に挿入した pWWP および pWPdel-BstXI、また、3xSp1 結合配列、変異型 3xSp1 結合配列をそれぞれルシフェラーゼ遺伝子の上流に挿入した Sp1-luc およ びmtSp1-lucを用いた(Nakano K et al. (1997). J. Biol. Chem., 272, 22199-22206, Sowa Y et al. (1997). Biochem. Biophys. Res. Comm., 241, 142-150). これらの遺伝子を上記と同様にトランスフェクションにより強制発現させて、 これが TSA の転写誘導に対してドミナントネガティブに働くかどうかを検討した。 その結果、DNSp3 により TSA による p21/WAF1/Cip1 の転写誘導は著明に抑制され、 これは Sp1 結合配列を含む TSA 依存性の p21/WAF1/Cip1 プロモーターの最少単位 (転写開始点より+16~-101)をもつ pWPdel-BstXI でも確認された(図4a, b)。ま た同様に、コンセンサスな Sp1 結合配列からの TSA による転写誘導も著明に抑制 された(図4c)。変異 Sp1 結合配列を用いたときには TSA による転写誘導は起こ らないが、DNSp3 による影響もみられなかった(図4d)。いずれのプロモーター を用いた場合にも、TSA 未刺激の基本転写活性に対しては DNSp3 は抑制作用を示 さなかった。以上のことから、Sp3の転写活性化ドメインが TSA 依存性の p21/WA F1/Cip1の転写誘導に重要であることが明らかになった。Sp3は TSA 未刺激時に は転写因子として極めて弱い活性しかもたないが、TSA 刺激時には恐らく HDAC を抑制することでアセチル化された何らかの分子を認識することにより強力な転 写活性を発現するものと予想される。

近年、癌に対する新しいアプローチとして転写調節化学治療あるいは転写調節 化学予防が提唱されている(Sakai T. (1996). Jpn. J. Hyg., 50, 1036-1046)。 すなわち、細胞増殖抑制性の p53 の標的遺伝子に対して、それらの転写を誘導す ることにより制癌作用を発揮させようとするものである。しかし、p53 が多くの ヒト癌細胞において変異が認められる(Sakai T. (1996). Jpn. J. Hyg., 50, 10 36-1046; Vogelstein B and Kinzler KW. (1992). Cell, 70, 523-526)点で、転 写誘導の標的として欠点を有するのに対し、p53 の標的遺伝子の1つであり細胞 周期抑制作用を持つ p21/WAF1/Cip1 はヒト癌細胞において変異がほとんど報告さ れていないことから(Chedid M et al. (1994). Oncogene, 9, 3021-3024; Li YJ et al. (1995). Oncogene, 10, 599-601)、その転写誘導によって制癌作用を期 待することができる。本発明においてヒストンアセチル化を介して p53 非依存性 に p21/WAF1/Cip1 の転写誘導を起こす経路が存在することが見い出されたが、こ れは p53 が変異している癌に対しても転写調節化学治療あるいは転写調節化学予 防が可能であることを示唆している。HDAC 阻害剤は1つの可能性として考えら れるが、実際に、all-trans-レチノイン酸抵抗性の急性白血病(acute promyeloc ytic leukemia)では、HDAC 阻害剤でありサラセミア (thalassemia) やアンモニ ア過剰血症 (hyperammonemic states) の治療に用いられていたフェニル酪酸ナ トリウム (sodium phenylbutyrate) がall-trans-レチノイン酸と併用すること により完全治癒させることが認められている(Warrel RP Jr et al. (1998). J. Natl. Cancer Inst., 90, 1621-1625)。これらの結果は癌治療における1つの標 的分子として HDAC の可能性を示唆するものである。

産業上の利用の可能性

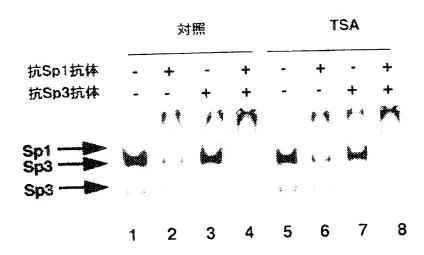
本発明により、HDAC を制御する Sp3 が癌治療における新たな標的分子となり得ることが示された。また、本発明により、Sp3 を標的とした効率的な抗腫瘍剤のスクリーニング方法が提供された。本発明のスクリーニングにより単離される化合物は、癌に対する新しい転写調節化学治療や予防への応用が期待される。

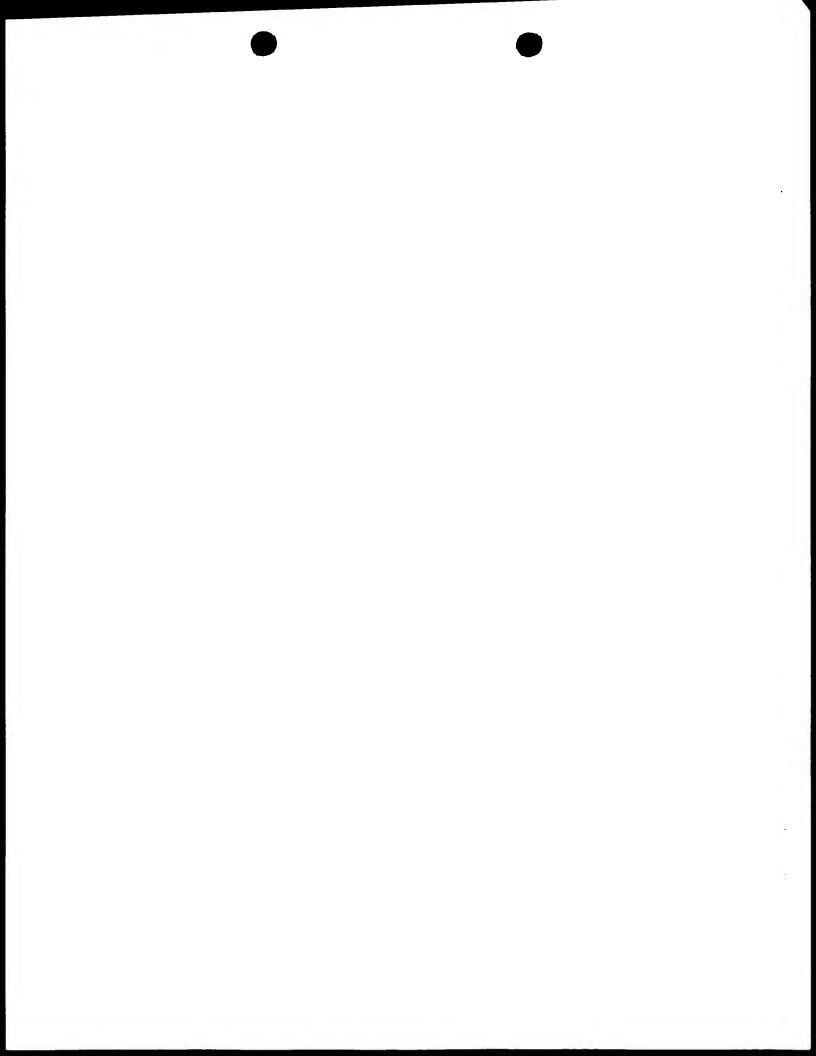
請求の範囲

- 1. 抗腫瘍剤をスクリーニンクする方法であって、
- (a) (i) Sp3 タンパク質の転写活性化能を有する領域および異種タンパク質の DNA 結合能を有する領域を含む融合タンパク質をコードする DNA を発現可能に含む第一のベクター、並びに(ii) 該異種タンパク質の結合配列を含み、該融合タンパク質が結合した際に活性化する発現制御配列およびその下流に機能的に結合されたレポーター遺伝子を含む第二のベクター、を保持する細胞を提供する工程、
- (b) 該細胞に対し、被検試料を接触させ、該レポーター活性を測定する工程、
- (c) 被検試料を該細胞に接触させない場合(対照)と比較して、該レポータ 一活性を増加させる化合物を選択する工程、を含む方法。
- 2. 異種タンパク質が GAL4 タンパク質、LexA タンパク質、またはテトラサイクリンリプレッサータンパク質である、請求項1に記載の方法。
- 3. レポーター遺伝子がルシフェラーゼ、クロラムフェニコールアセチルトランスフェラーゼ、β-ガラクトシダーゼ、ヒト成長ホルモン、または分泌型アルカリホスファターゼをコードする、請求項1または2に記載の方法。
- 4. Sp3 を介する転写活性を促進する化合物を有効成分とする抗腫瘍剤。
- 5. 請求項1から3のいずれかに記載のスクリーニングにより単離しうる、請求項4に記載の抗腫瘍剤。

1/4

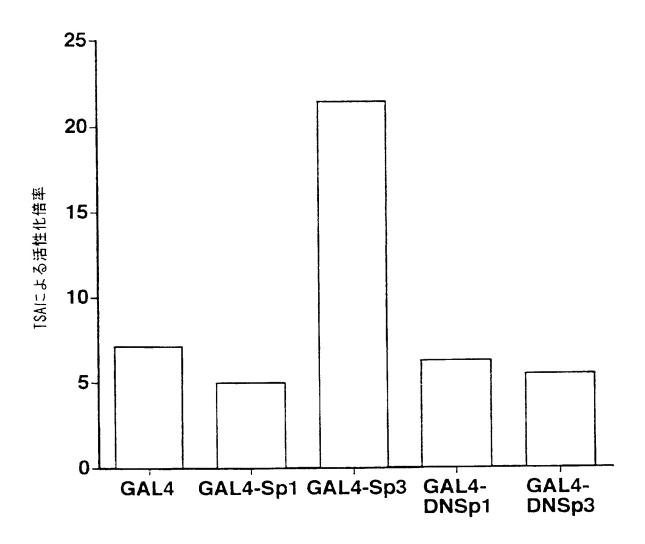
図 1

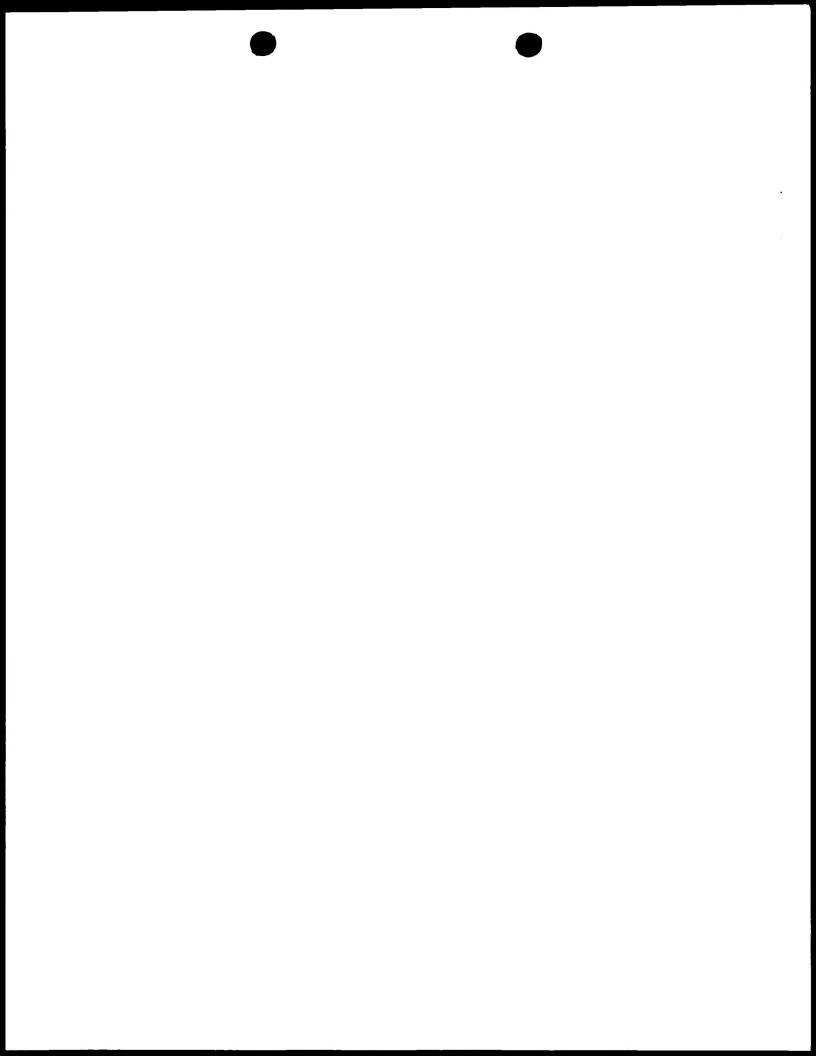




 $2 \neq 4$

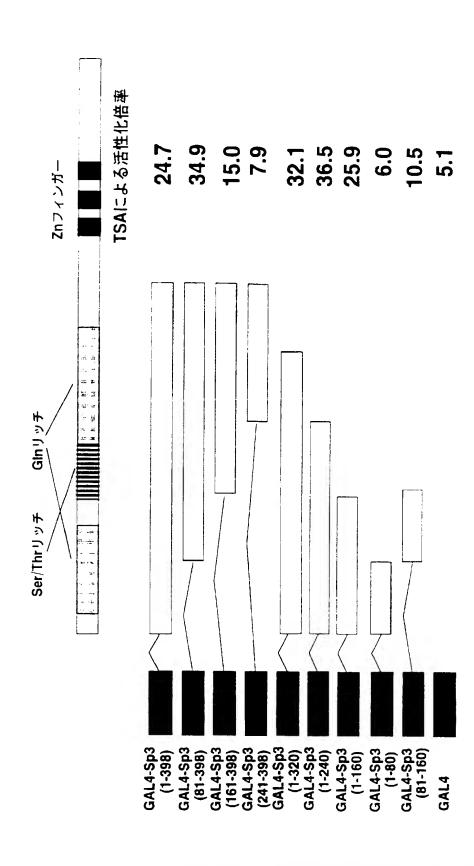
图 2

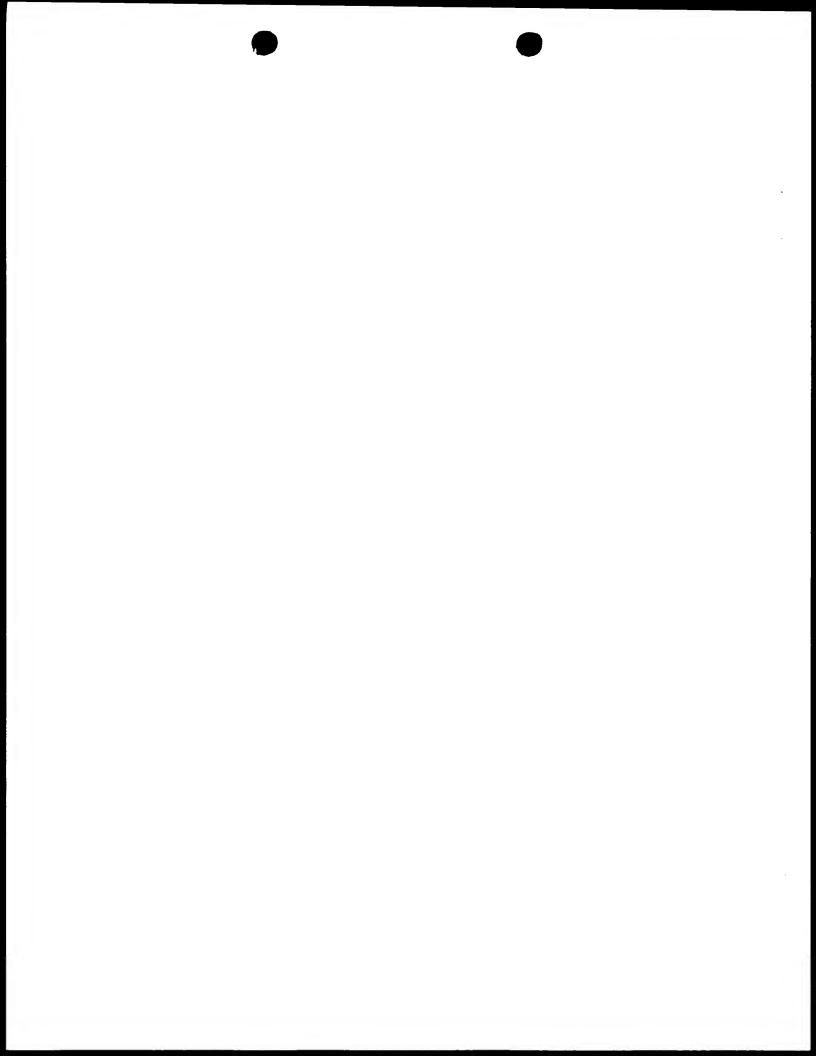




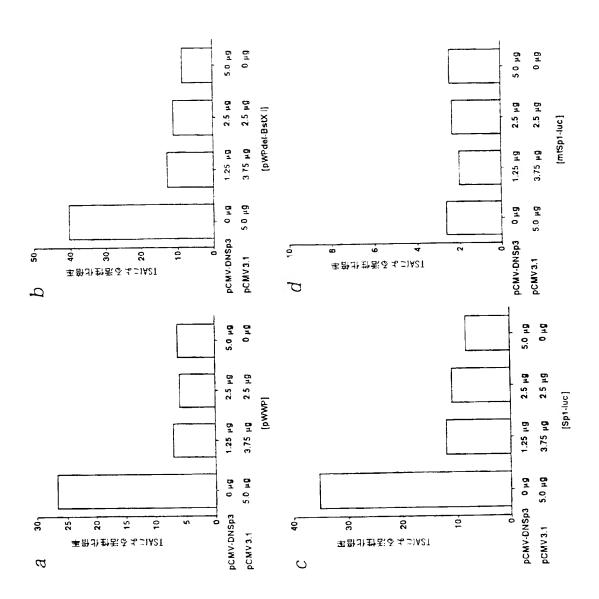
 $3 \neq 4$

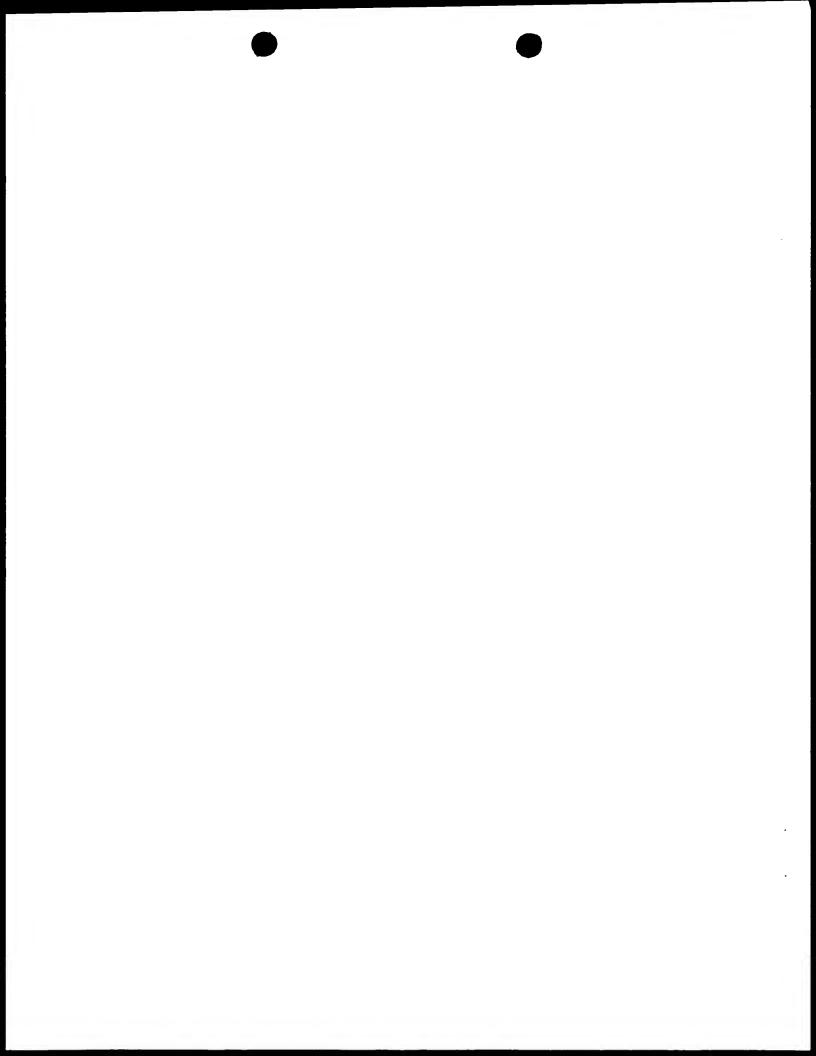
图 3





4 / 4





SEQUENCE LISTING

<110> CHUGAI RESEARCH INSTITUTE FOR MOLECULAR MEDICINE, INC.

<120> Methods for screening anti-tumor agents

<130> C2-101PCT

<140>

<141>

<150> JP 1999-77350

<151> 1999-03-23

<160> 18

<170> PatentIn Ver. 2.0

<210> 1

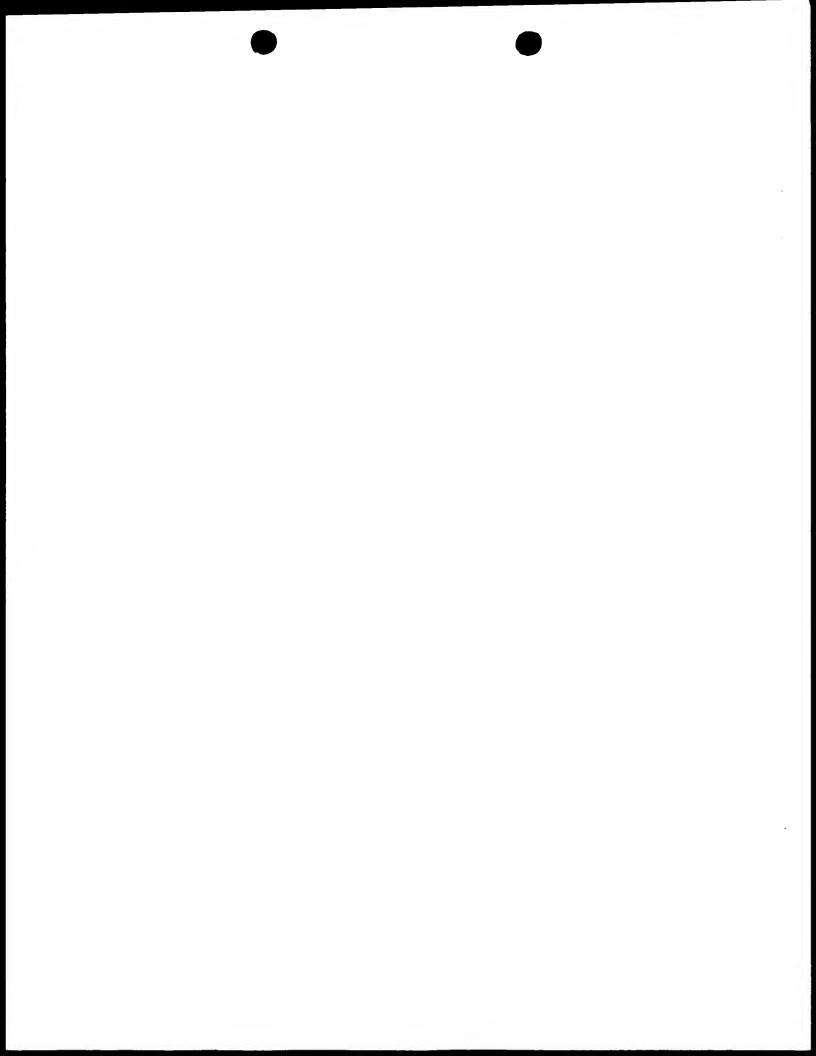
<211> 16

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Description of Artificial Sequence: an artificially
synthesized oligonucleotide sequence



<400> 1

egggteege etectt

16

<210> 2

<211> 20

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Description of Artificial Sequence: an artificially synthesized oligonucleotide sequence

<400> 2

agctegggte cegecteett

20

<210> 3

<211> 20

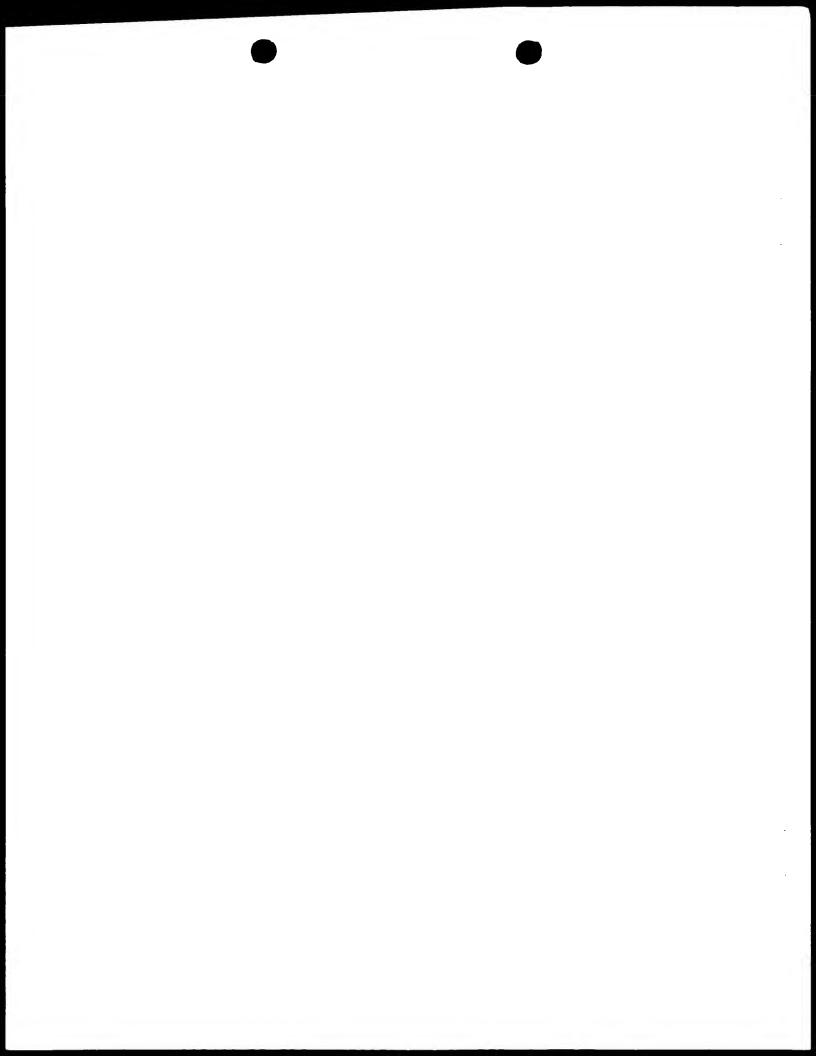
<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Description of Artificial Sequence: an artificially synthesized oligonucleotide sequence

<400> 3



t.cgaaaggag	gegggaeeeg

20

- · 210> 4
- <211> 14
- <212 > DNA
- <213> Artificial Sequence

<220>

<223> Description of Artificial Sequence: an artificially synthesized primer sequence

<400> 4

acaggtgagc ttga

14

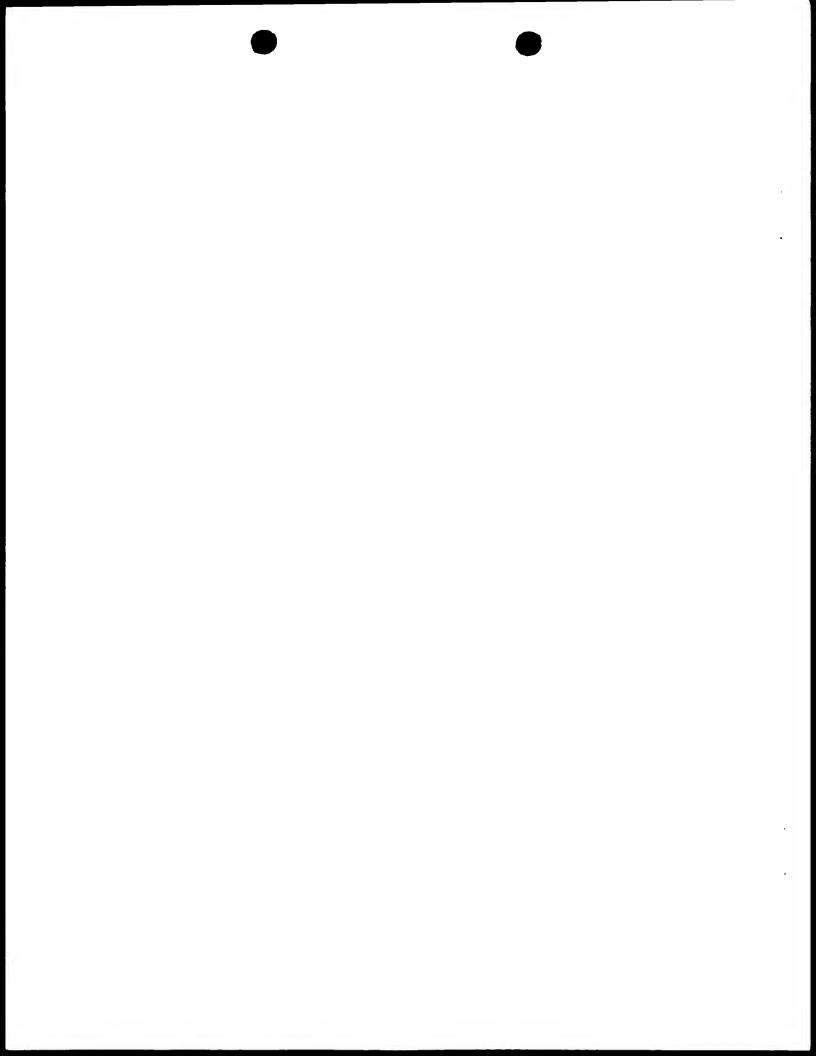
- <210> 5
- <211> 15
- <212> DNA
- <213> Artificial Sequence

<220>

<223> Description of Artificial Sequence: an artificially synthesized primer sequence

<400> 5

tcagaagcca ttgcc



- <210> 6
- <211> 30
- <212> DNA
- -213> Artificial Sequence

<220>

<223> Description of Artificial Sequence: an artificially synthesized primer sequence

<400> 6

 ${\tt ccaaaaaaga} \ {\tt agagaaaggt} \ {\tt aacccggcgg}$

30

- <210> 7
- <211> 15
- <212> DNA
- <213> Artificial Sequence

<220>

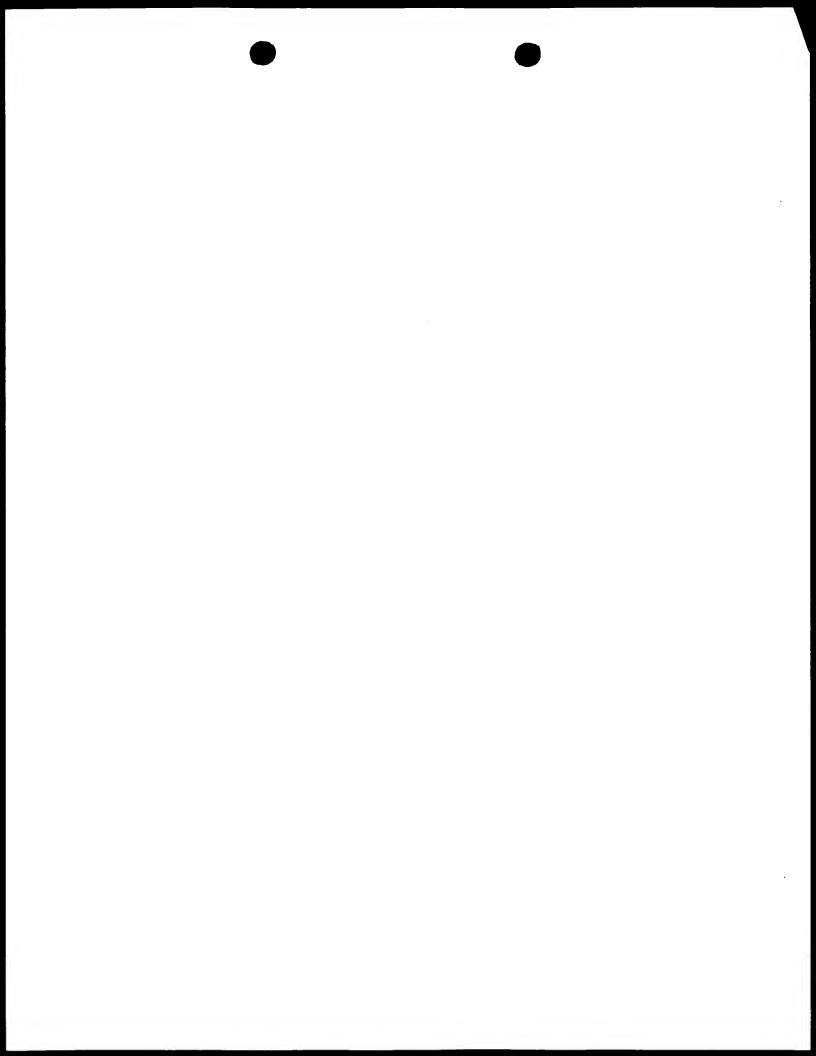
<223> Description of Artificial Sequence: an artificially synthesized primer sequence

<400> 7

gaagcatgca cctgc

15

- <210> 8
- <211> 23



<21	95	DNA
< /.	4.	ממע

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Description of Artificial Sequence: an artificially synthesized primer sequence

<400> 8

cgggatccat tccaagtgct gct

23

<210> 9

<211> 30

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Description of Artificial Sequence: an artificially synthesized primer sequence

<400> 9

ataggateet tactecattg teteatttee

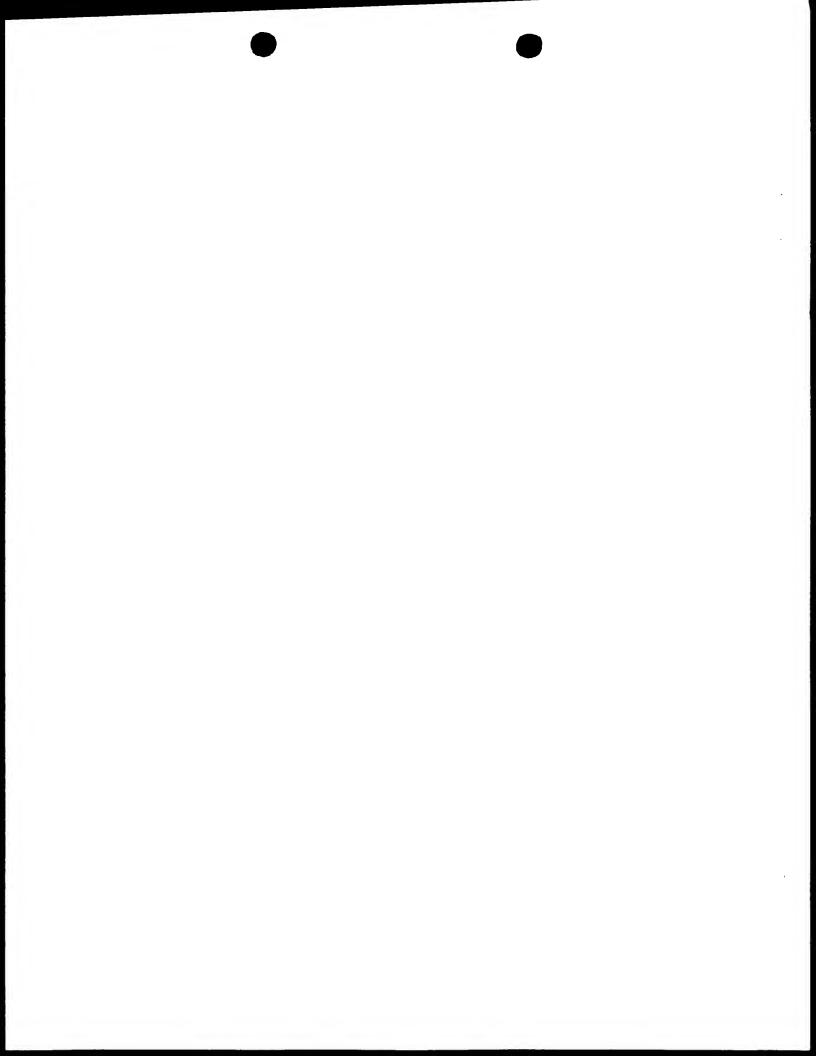
30

<210> 10

-211> 26

<212> DNA

<213> Artificial Sequence



9	9	n	٠	

*223> Description of Artificial Sequence: an artificially synthesized primer sequence

<400> 10

cgggatecaa etetatagat tetget

26

<210> 11

211 > 26

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Description of Artificial Sequence: an artificially
 synthesized primer sequence

<400> 11

gcggatccca ctgtaactgt ttgtag

26

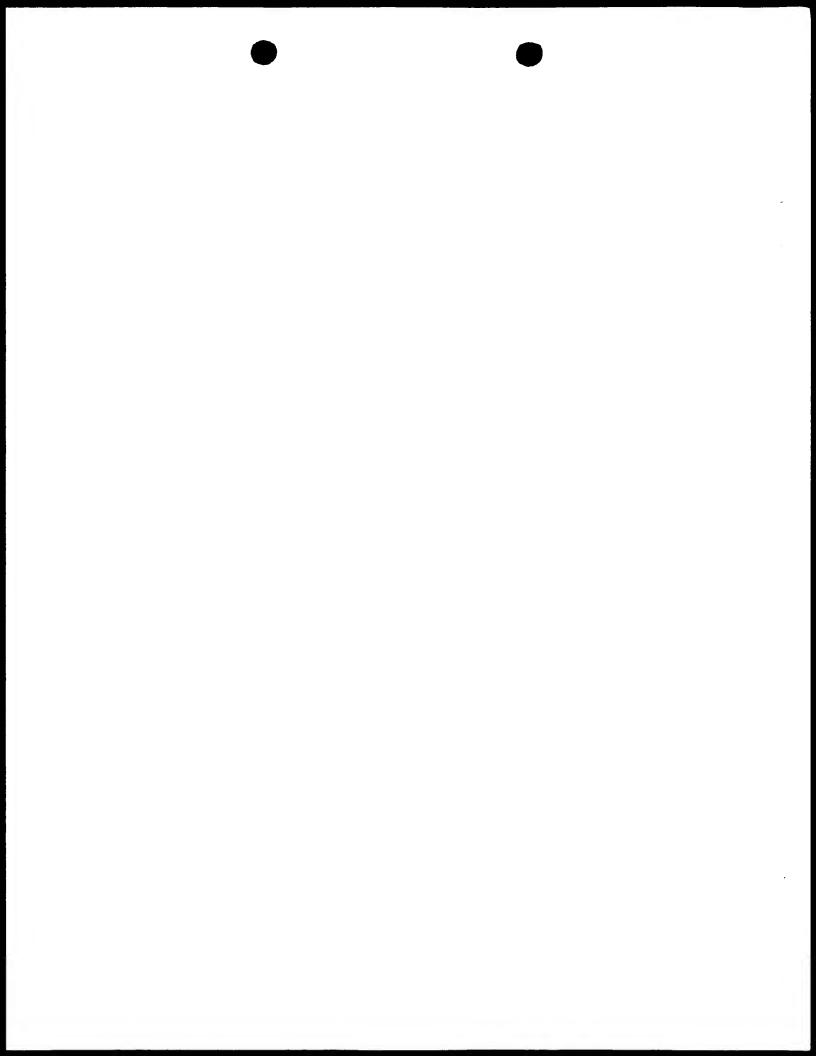
<210> 12

<211> 28

<212> DNA

-213> Artificial Sequence

<220>



<223> Description of Artificial Sequence: an artificially synthesized primer sequence

<400> 12

cgggatccgg ctctaatcaa accttact

28

<210> 13

<211> 28

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Description of Artificial Sequence: an artificially synthesized primer sequence

<400> 13

cgggatccgg cattaatgcc gacggaca

28

<210> 14

<211> 28

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Description of Artificial Sequence: an artificially
 synthesized primer sequence



14	\wedge	` <	1	4
< 4 I	ш	1>	- 1	4

cgggatccca gggaaattat atccagtc

28

- <210> 15
- <211> 28
- <212> DNA
- <213> Artificial Sequence

<220>

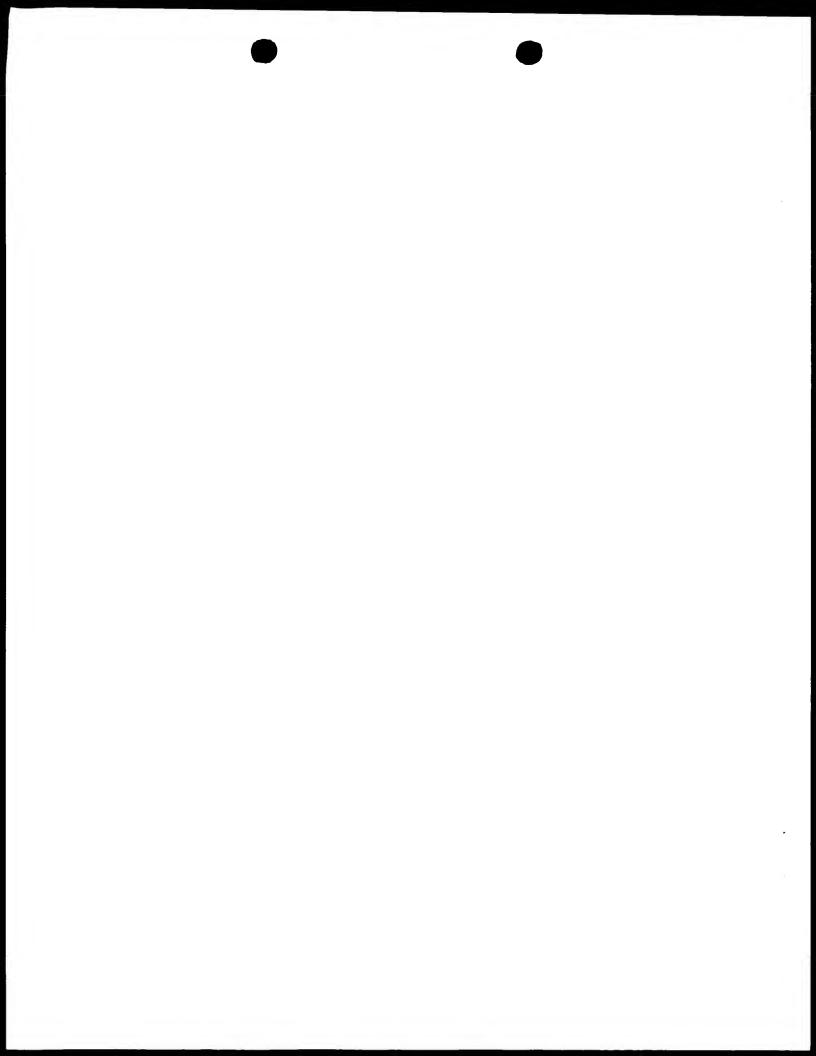
<223> Description of Artificial Sequence: an artificially
 synthesized primer sequence

<400> 15

cgggatccag gaatgatctg aatttgac

28

- <210> 16
- <211> 28
- <212> DNA
- <213> Artificial Sequence
- <220>
- <223> Description of Artificial Sequence: an artificially
 synthesized primer sequence



coopatects	cagtcattgt	ctgagaac
CEERALUULUS.	Cubicaco	الريسون د

28

<210> 17

<211> 28

<212> DNA

<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Description of Artificial Sequence: an artificially synthesized primer sequence

<400> 17

cgggatccaa gatctgaaga atgaacct

28

<210> 18

<211> 28

<212> DNA

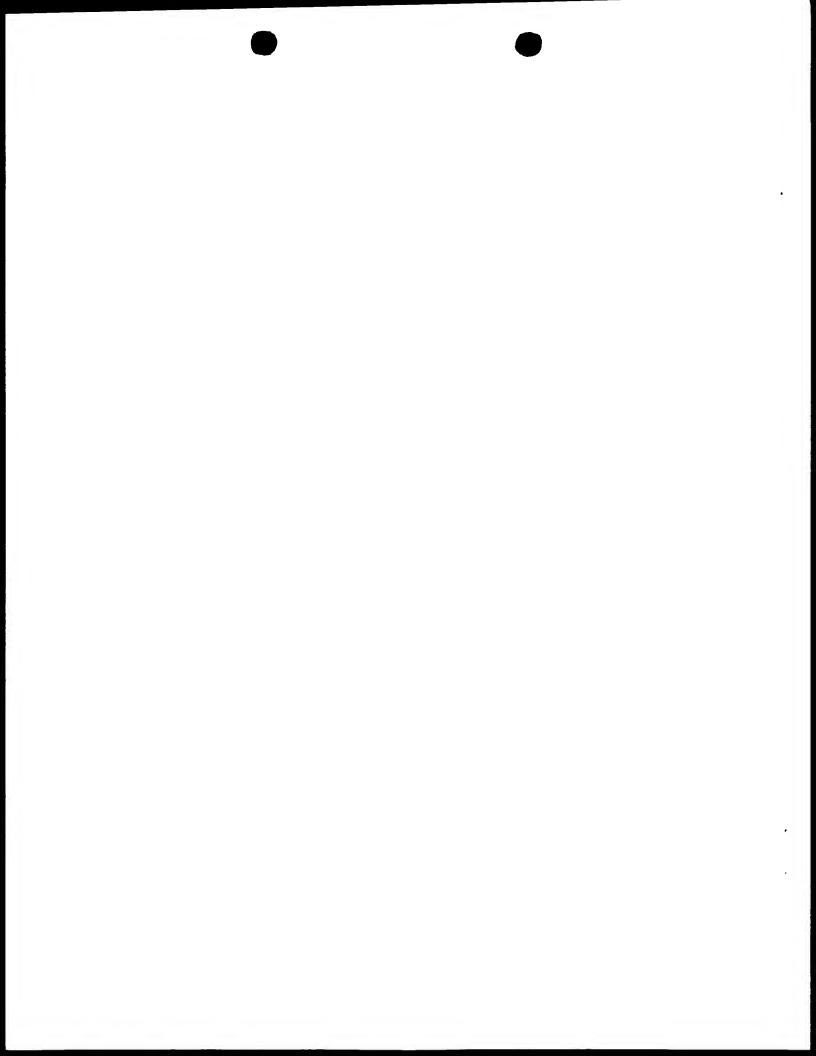
<213> Artificial Sequence

<220>

<223> Description of Artificial Sequence: an artificially synthesized primer sequence

<400> 18

cgggatccaa aggttccagg attcagct



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP00/01778

Α.	CLASS	FICATION OF SUBJECT MATTER C1 ⁷ C12Q 1/02, C12N 15/09, A61K 5/10	31/165, A61P 35/00, A61	K 45/00 // C12N		
Acc	According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC					
		SEARCHED				
Min	imum do Int.	cumentation searched (classification system followed b	y classification symbols) K 31/165, A61K 45/00			
Doc	umentati	on searched other than minimum documentation to the	extent that such documents are included i	n the fields searched		
Elec		ita base consulted during the international search (name INE (STN), WPI (DIALOG), REGISTRY (ST				
C.	DOCUN	MENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT				
Cat	egory*	Citation of document, with indication, where app	propriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.		
I	Р, X	SOWA, Y. et al. "Sp3, but no transcriptional activation of promoter by histone deacetylase Cancer Res. (1999.Sep.1) Vol.59	the p21/WAF1/Cip1 gene inhibitor",	1-5		
I	?,X	XIAO,H.et al. "Both Sp1 and Sp3 are responsible for p21waf1 promoter activity induced by histone deacetylase inhibitor in NIH3T3 cells", J. Cell. Biochem. (1999 Jun.1) Vol.73, No.3, p.291-302				
	Y	HASEGAWA, T.et al. "Cloning of a GADD34-like gene that interacts with the zinc-finger transcription factor which binds to the p21 (WAF) promoter", Biochem. Biophys. Res. Commun. (1999. Mar.5) Vol.256, No.1, p.249-254				
	Y	SOWA, Y.et al. "Histone deacetyle the WAF1/Cip1 gene promoter thr Biochem. Biophys. Res. Commun. p.142-150	ough the Spl sites",	1-5		
	Y	NAKANO, K. et al. "Butyrate activ	vates the WAF1/Cip1 gene	1-5		
\boxtimes	Furthe	r documents are listed in the continuation of Box C.	See patent family annex.			
Special categories of cited documents: "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "E" earlier document but published on or after the international filing date "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed Date of the actual completion of the international search 3 0 May, 2000 (30.05.00) "T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention cannot considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone document of particular relevance; the claimed invention cannot considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art document member of the same patent family Date of the actual completion of the international search and the principle or theory underlying the invention considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art document member of the same patent family			the application but cited to cerlying the invention celaimed invention cannot be red to involve an inventive claimed invention cannot be patient to the document is documents, such a skilled in the art family			
Na	me and n	nailing address of the ISA/	Authorized officer			
"		nese Patent Office				
Fac	simile N	Ο.	Telephone No.			

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP00/01778

ategory*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No
	promoter through Spi sites in a p53-negative human colon cancer cell line", J. Biol. Chem. (1997) Vol.272, No.35, p.22199-22206	
X Y	JP, 60-149520, A (AJINOMOTO CO., INC.), 07 August, 1985 (07.08.85) Family: none)	4-5 1-5
X Y	NAKAJIMA, H. et al. "FR901228, a potent antitumor antibiotics, is a novel histone deacetylase inhibitor", Exp. Cell Res (1998) Vol. 241, No. 1, p. 126-133	4-5 1-5
X Y	WARRELL, R. P. et al. "Therapeutic targeting of transcription in acute promyelocytic leukemia by use of aninhibitor of histone deacetylase", J. Natl. Cancer Inst. (1998) Vol.90, No.21, p.1621-1625	4-5 1-5
P,Y	SOWA, Y. et al. "Histone deacetylase inhibitor activates the p21/WAF1/Cipl gene promoter through the Spl sites", Ann. N. Y. Acad. Sci. (1999.) Vol.886, p.195-199	1-5
A	DATTO, M. B. et al. "Functional analysis of the transforming growth factor β responsive elements in the WAF1/Cip1/p21 promoter", J. Biol. Chem. (1995) Vol.270, No.48, p.28623-28628	1-5
A	ADNANE, J. et al."p21(WAF1/CIP1) is upregulated by the geranylgeranyltransferase I inhibitor GGTI-298 through a transforming growth factor β - and Sp1-responsive element:involvement of the small GTPase rhoA", Mol. Cell. Biol. (1998) Vol.18, No.12, p.6962-6970	1-5

国際調査報告

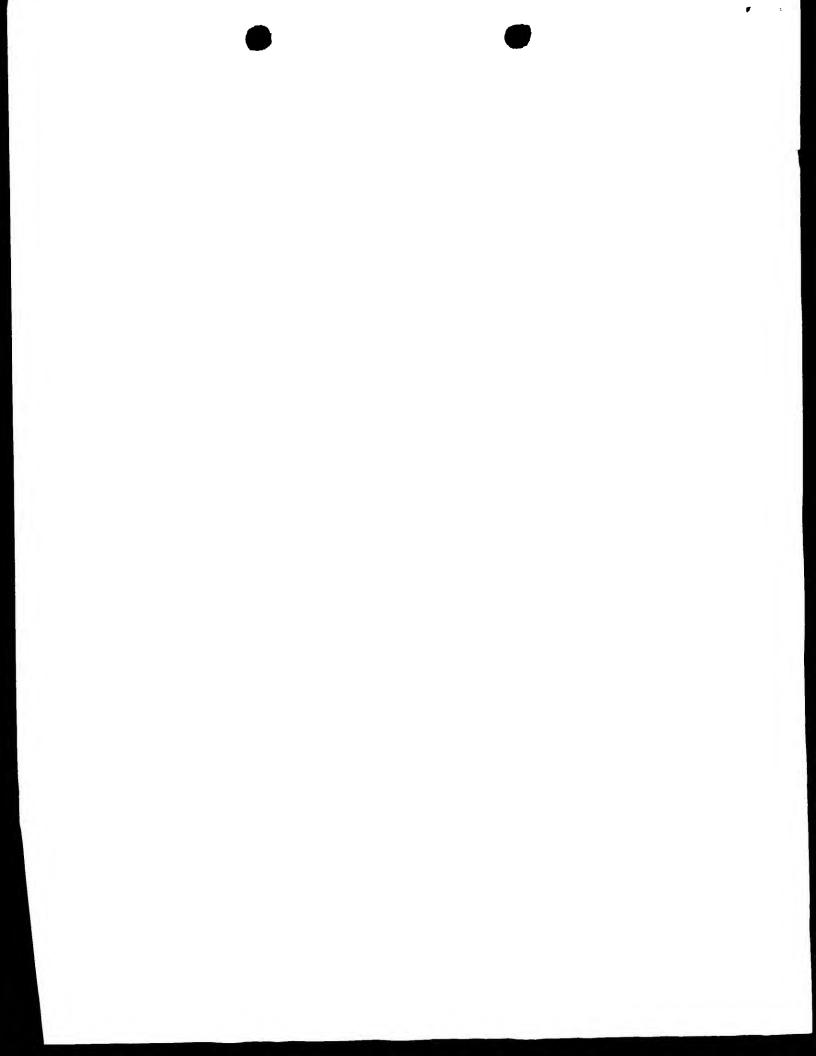
C (続き).	関連すると認められる文献	
引用 文献 の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	HASEGAWA, T. et al. "Cloning of a GADD34-like gene that interacts with the zinc-finger transcription factor which binds to the p21(WAF) promoter", Biochem. Biophys. Res. Commun. (1999. Mar. 5) Vol. 256. No. 1, p. 249-254	1-5
Y	SOWA, Y. et al. "Histone deacetylase inhibitor activates the WAF1/Cipl gene promoter through the Spl sites", Biochem. Biophys. Res. Commun. (1997) Vol. 241, No. 1, p. 142-150	1-5
Y	NAKANO, K. et al. "Butyrate activates the WAF1/Cipl gene promo ter through Spl sites in a p53-negative human colon cancer cell line", J. Biol. Chem. (1997) Vol. 272, No. 35, p. 22199-22206	1-5
$\frac{X}{Y}$	JP, 60-149520, A(味の素株式会社)7.8月.1985(07.08.85) (ファミリーなし)	<u>4-5</u> 1-5
<u>X</u> <u>Y</u>	NAKAJIMA, H. et al. "FR901228, a potent antitumor antibiotics, is a novel histone deacetylase inhibitor", Exp. Cell Res(1998) Vol. 241, No. 1, p. 126-133	<u>4-5</u> 1-5
$\frac{X}{Y}$	WARRELL, R. P. et al. "Therapeutic targeting of transcription in acute promyelocytic leukemia by use of an inhibitor of hist one deacetylase", J. Natl. Cancer Inst. (1998) Vol. 90, No. 21, p. 1621-1625	<u>4-5</u> 1-5
Р, Ү	SOWA. Y. et al. "Histone deacetylase inhibitor activates the p21/WAF1/Cip1 gene promoter through the Spl sites", Ann. N. Y. Acad. Sci. (1999) Vol. 886, p. 195-199	1-5
A	DATTO, M. B. et al. "Functional analysis of the transforming growth factor β responsive elements in the WAF1/Cip1/p21 promoter", J. Biol. Chem. (1995) Vol. 270, No. 48, p. 28623-28628	1-5
A	ADNANE, J. et al. "p21(WAF1/CIP1) is upregulated by the geranyl geranyltransferase I inhibitor GGTI-298 through a transforming growth factor β - and Sp1-responsive element involvement of the small GTPase rhoA", Mol. Cell. Biol. (1998) Vol. 18, No. 12, p. 6962-6970	1-5

電話番号 03-3581-1101 内線 3448

A. 発明の	為 する分野の分類(国際特許分類(IPC))		
Int.Cl	C12Q 1, 02, C12N 15709, A61K 31/165, A61P 357	00, A61K 45, 00 C12N 5,10	
B. 調査を	」。た分野 皮小股資料(毛際特許分類(!PC);		
調査と行うに対	校内型集体 に与索付置が発 しょかしょう		
int.Cl	C12Q 1 02, C12N 15 09, A61K 31/165, A61K 45/	00	
最小限資料以	Nの資料で調査を行った分野に含まれるもの。		
国際調査で使	用した電子データベース(データベースの名称、	調査に使用した用語)	
MEDLINI	(STN), WP1(DIALOG), REGISTRY(STN), CA(STN), JIC	CST7=(N(JOIS)	
	ると認められる文献		
引用文献の	3 _ 40 17 19 4 US X 10A		関連する
カテゴリー*	日 日用文献名 及び一部の箇所が関連すると	:きは、その関連する箇所の表示	請求の範囲の番号
Р, Х	SOWA, Y. et al. "Sp3, but not Sp1, me activation of the p21/WAF1/Cip1 g deacetylase inhibitor", Cancer Res. (1999. Sep. 1) Vol. 59, No.	ene promoter by histone	1-5
Р, Х	XIAO, H. et al. "Both Sp1 and Sp3 ar promoter activity induced by hist in NIH3T3 cells", J. Cell. Biochem. (1999. Jun. 1) Vol. 73	one deacetylase inhibitor	1-5
区 C欄の続	きにも文献が列挙されている。	バテントファミリーに関する別	紙を参照。
* 引用文献のカテゴリー 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの 「E」国際出願目前の出願または特許であるが、国際出願日 以後に公表されたもの 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで、			発明の原理又は理 当該文献のみで発明 さられるもの 当該文献と他の1以 自明である組合せに るもの
国際調査を完	了した日 3 0 .05.00	国際調査報告の発送日 06.06	5.00
	の名称及びあて先 国特許庁(ISA/JP)	特許庁審査官(権限のある職員) つる 高堀 栄二 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	4 B 9 2 8 1

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号



PCT

EP · U 多 国際調査報告

(法8条、法施行規則第40、41条) [PCT18条、PCT規則43、44]

出願人又は代理人 の書類記号 C2-101PCT	今後の手続きし		g告の送付通知様st を参照すること。	式(PCT/ISA/220
国際出願番号 PCT/JP00/01778	国際出願日(日.月.年)	23.03.00	優 先日 (日.月.年)	23.03.99
出願人 (氏名又は名称) 株式会	社 中外分子医学	学研究所		
国際調査機関が作成したこの国際調 この写しは国際事務局にも送付され		規則第41条(PCT18	条)の規定に従い	い出願人に送付する。
この国際調査報告は、全部で 3	ページである	<u>გ</u> .		

国際調査機関が手放したこの国際調査報告を伝過行規則第41条(『して18条)の規定に促い面積人に送行する。 この写しは国際事務局にも送付される。
この国際調査報告は、全部で3ページである。
この調査報告に引用された先行技術文献の写しも添付されている。
1. 国際調査報告の基礎 a. 言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願がされたものに基づき国際調査を行った。 □ この国際調査機関に提出された国際出願の翻訳文に基づき国際調査を行った。
b. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際調査を行った。 □ この国際出願に含まれる書面による配列表
□ この国際出願と共に提出されたフレキシブルディスクによる配列表
出願後に、この国際調査機関に提出された書面による配列表
□ 出願後に、この国際調査機関に提出されたフレキシブルディスクによる配列表
□ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。
■ 書面による配列表に記載した配列とフレキシブルディスクによる配列表に記録した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。
2. 請求の範囲の一部の調査ができない(第1欄参照)。
3. □ 発明の単一性が欠如している(第Ⅱ欄参照)。
4. 発明の名称は 図 出願人が提出したものを承認する。
次に示すように国際調査機関が作成した。
5. 要約は 国 出願人が提出したものを承認する。
第Ⅲ欄に示されているように、法施行規則第47条(PCT規則38.2(b))の規定により 国際調査機関が作成した。出願人は、この国際調査報告の発送の日から1カ月以内にこの国際調査機関に意見を提出することができる。
6. 要約書とともに公表される図は、 第 図とする。
□ 出願人は図を示さなかった。
■ 本図は発明の特徴を一層よく表している。

Δ	発明の属する分野の分類	(国際特許分類	(I	PC))
Α.	金男の	(国际刊印 ルが	(A	1 0,	•

Int. Cl' C12Q 1/02, C12N 15/09, A61K 31/165, A61P 35/00, A61K 45/00 // C12N 5/10

調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int. Cl' C12Q 1/02, C12N 15/09, A61K 31/165, A61K 45/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

MEDLINE (STN), WPI (DIALOG), REGISTRY (STN), CA (STN), JICST7711 (JOIS)

С.	関連す	る	۲	認め	51	1る 又献	:
21 EB:	立寺の	$\neg \vdash$					

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Р, Х	SOWA, Y. et al. "Sp3, but not Sp1, mediates the transcriptional activation of the p21/WAF1/Cip1 gene promoter by histone deacetylase inhibitor", Cancer Res. (1999. Sep. 1) Vol. 59, No. 17, p. 4266-4270	1-5
Р, Х	XIAO, H. et al. "Both Spl and Sp3 are responsible for p21waf1 promoter activity induced by histone deacetylase inhibitor in NIH3T3 cells", J. Cell. Biochem. (1999. Jun. 1) Vol. 73, No. 3, p. 291-302	1-5

|×| C欄の続きにも文献が列挙されている。

| パテントファミリーに関する別紙を参照。

- * 引用文献のカテゴリー
- 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示す
- 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日 以後に公表されたもの
- 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行 日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する 文献(理由を付す)
- 「〇」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
- 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

- の日の後に公表された文献
- 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって て出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理 論の理解のために引用するもの
- 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明 の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
- 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以 上の文献との、当業者にとって自明である組合せに よって進歩性がないと考えられるもの
- 「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

30.05.00

国際調査報告の発送日

06.06.00

国際調査機関の名称及びあて先

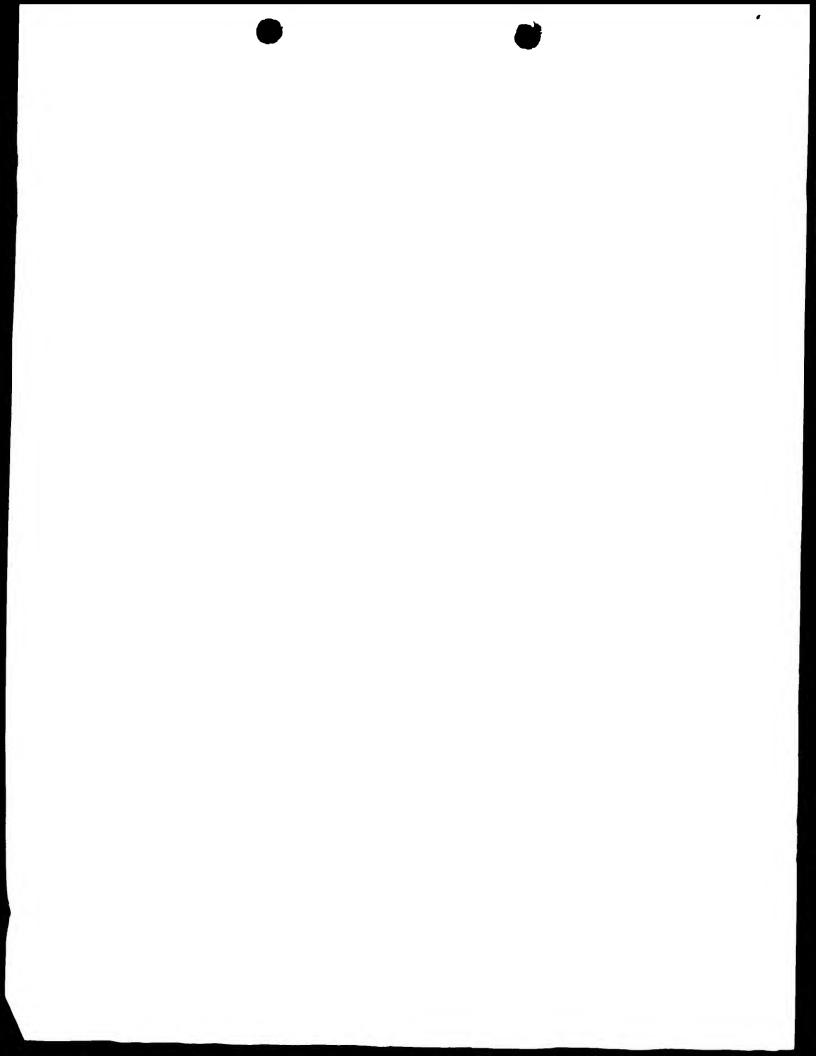
日本国特許庁(ISA/JP)

郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号 特許庁審査官(権限のある職員)

高堀 栄二

4 B 9281

電話番号 03-3581-1101 内線 3448



	国際調査報告 国際出願番号 PCT/JP0	0/01778
C (続き).	関連すると認められる文献	
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	HASEGAWA, T. et al. "Cloning of a GADD34-like gene that interacts with the zinc-finger transcription factor which binds to the p21(WAF) promoter", Biochem. Biophys. Res. Commun. (1999. Mar. 5) Vol. 256, No. 1, p. 249-254.	1-5
Y	SOWA, Y. et al. "Histone deacetylase inhibitor activates the WAF1/Cipl gene promoter through the Spl sites", Biochem. Biophys. Res. Commun. (1997) Vol. 241, No. 1, p. 142-150	1-5
Y	NAKANO, K. et al. "Butyrate activates the WAF1/Cip1 gene promo ter through Sp1 sites in a p53-negative human colon cancer cell line", J. Biol. Chem. (1997) Vol. 272, No. 35, p. 22199-22206	1-5
$\frac{X}{Y}$	JP, 60-149520, A(味の素株式会社)7.8月.1985(07.08.85) (ファミリーなし)	<u>4-5</u> 1-5
<u>X</u> Y	NAKAJIMA, H. et al. "FR901228, a potent antitumor antibiotics, is a novel histone deacetylase inhibitor", Exp. Cell Res (1998) Vol. 241, No. 1, p. 126-133	<u>4-5</u> 1-5
$\frac{X}{Y}$	WARRELL, R. P. et al. "Therapeutic targeting of transcription in acute promyelocytic leukemia by use of an inhibitor of hist one deacetylase", J. Natl. Cancer Inst. (1998) Vol. 90, No. 21, p. 1621-1625	<u>4-5</u> 1-5
Р, Ү	SOWA, Y. et al. "Histone deacetylase inhibitor activates the p21/WAF1/Cip1 gene promoter through the Sp1 sites", Ann. N. Y. Acad. Sci. (1999) Vol. 886, p. 195-199	1-5
A	DATTO, M. B. et al. "Functional analysis of the transforming growth factor β responsive elements in the WAF1/Cip1/p21 promoter", J. Biol. Chem. (1995) Vol. 270, No. 48, p. 28623-28628	1-5
	ADNANE, J. et al. "p21 (WAF1/CIP1) is upregulated by the geranyl geranyltransferase I inhibitor GGTI-298 through a transforming growth factor β - and Sp1-responsive element:involvement of the small GTPase rhoA", Mol. Cell. Biol. (1998) Vol. 18, No. 12, p. 6962-6970	1-5

